

論文以外のコンテンツ

雑誌名	東洋大学文学部紀要．教育学科編
号	41
発行年	2015
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00007944/



THE BULLETIN OF TOYO UNIVERSITY

No.69

Faculty of Letters
Department of Education

XLI

2015

CONTENTS

Current Issues on Early Intervention Programs for Young Children with Developmental Disabilities and Their Families (11): Making the Guidebook on Newly Revised-Edition of “Group Teaching Curriculum for Inclusive Preschool Education”SHIMIZU Naoji.....	13
Why SHINOHARA Sukeichi (1876-1957) Changed His Definition of Education in His Book, <i>Education</i> , Published in 1939?: Focused on His Discrepancies between His Plan of ‘General Theory of Education’ Described in His Dissertation, Titled, <i>The Essence of Education and Science of Education</i> , published in 1930, and What Is Described in His Book, Titled, <i>General Theory of Education</i> , Published in 1929 YONEZAWA Masao.....	43
A Historical Study on the Practice of “Problem Based Learning” in the Moral Education Classes ITABASHI Masanori.....	55
How Learning Strategy Impacts the Development of Critical Thinking ENOMOTO Junko, NAKAMICHI Naoko.....	65
The Characteristics of Moral Education on the Philosophy of Rudolf Steiner : Focus on the Idea of “Moralistic Fantasy”SHIMODA Yoshiyuki.....	71
Formation and Development of “Rensei” Theory of “HOTOKU Education” : Focusing on the Ideologue of Education Scholar KATO Nihei SUDA Masashi.....	81
Strategy, Development and Outcome of Community Educational Facilities in London: Idea Stores in the London Borough of Tower HamletsSEKI Naoki.....	97
Quantification and Data Interpretation in Scientific Research Process: Focusing on “ <i>Students and Research Practical Strategies for Science Classrooms and Competitions</i> ”MIYAMOTO Naoki.....	107

Published by
TOYO UNIVERSITY
Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo

ISSN 1347-4960

東洋大学文学部紀要

第69集

教育学科編

XLI

二〇一五年度

東洋大学文学部紀要

第69集

教育学科編 XLI

2015年度



東洋大学

東洋大学文学部紀要

第 69 集

教育学科編 XLI

目 次

略歴・著作目録	清水 直 治	1
発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題 (11)		
—改訂新版『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム— 「遊びユニット」中心の多層水準指導—の解説書の作成に関して—		
	清水 直 治	13
略歴・著作目録	米 澤 正 雄	27
篠原助市は何故に自らの教育規定を転換したのか？		
—『教育の本質と教育学』(1930)における「理論的教育学」の構想と 『理論的教育学』(1929)の論述内容とのズレに着目して—		
	米 澤 正 雄	43
道徳授業における「問題解決学習」の実践史的考察		
	板 橋 雅 則	55
批判的思考力はどのような学習方略から育成されるのか？		
	榎 本 淳 子 中 道 直 子	65
R.シュタイナーの道徳教育の特質		
—「道徳的想像力」とメルヘンとの関係を中心に—		
	下 田 好 行	71
報徳教育の錬成論的な形成と展開		
—加藤仁平のイデオロギー性に着目して—		
	須 田 将 司	81
Strategy, Development and Outcome of Community Educational Facilities in London: Idea Stores in the London Borough of Tower Hamlets		
	Naoki SEKI	97
科学的探究プロセスにおける数量化とデータ解釈		
— <i>Students and Research Practical Strategies for Science Classrooms and Competitions</i> に着目して—		
	宮 本 直 樹	107
2015年文学部教育学科研究活動報告		115

清 水 直 治

略歴・著作目録

東洋大学文学部紀要 第69集(2016年3月)抜刷

(東洋大学文学部紀要 第69集 教育学科編 XLI)

発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題(11)
—改訂新版『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム—
「遊びユニット」中心の多層水準指導—』—の解説書の作成に関して—

清 水 直 治

米澤正雄

略歴・著作目録

東洋大学文学部紀要 第69集(2016年3月)抜刷

(東洋大学文学部紀要 第69集 教育学科編 XLI)

篠原助市は何故に自らの教育規定を転換したのか？
—『教育の本質と教育学』（1930）における「理論的教育学」の構想と
『理論的教育学』（1929）の論述内容とのズレに着目して—

米 澤 正 雄

道徳授業における「問題解決学習」の
実践史的考察

板 橋 雅 則

批判的思考力は
どのような学習方略から育成されるのか?
How learning strategy impacts the development of critical thinking ?

榎 本 淳 子 中 道 直 子

R.シュタイナーの道德教育の特質
—「道德的想像力」とメルヘンとの関係を中心に—

下 田 好 行

報徳教育の錬成論的な形成と展開
—加藤仁平のイデオログ性に着目して—

須 田 将 司

Strategy, Development and Outcome of
Community Educational Facilities in London:
Idea Stores in the London Borough of
Tower Hamlets

Naoki SEKI

科学的探究プロセスにおける数量化とデータ解釈

—*Students and Research Practical Strategies for Science Classrooms and Competitions*に着目して—

宮 本 直 樹

東洋大学文学部紀要 第69集(2016年3月)抜刷

(東洋大学文学部紀要 第69集 教育学科編 XLI)



清水 直治 教授

清水直治

略歴・著作目録

清水直治 略歴・著作目録

略 歴

1951年2月21日生まれ（埼玉県）

<学歴>

1973年3月	埼玉大学教育学部小学校教員養成課程	卒業
1973年4月	埼玉大学教育専攻科教育心理学コース	入学
1974年3月	埼玉大学教育専攻科教育心理学コース	修了
1974年4月	東京大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程	入学
1976年3月	東京大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程	修了
1976年4月	東京大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程	進学
1979年11月	東京大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程	単位取得 満期退学

<職歴>

1979年12月	東京学芸大学教育学部附属特殊教育研究施設	助手
1988年4月	東京学芸大学教育学部附属特殊教育研究施設	助教授
1988年5月	東京学芸大学大学院教育学研究科障害児教育専攻障害児指導法講座担当（～1997年3月）	
1997年4月	東京学芸大学大学院総合開発専攻教育カウンセリングコース担当（～1998年3月）	
1998年4月	東京学芸大学大学院教育学研究科障害児教育専攻特別ニーズ教育学担当（～2002年3月）	
1999年4月	東京学芸大学教育学部附属特殊教育研究施設	教授（～2002年3月）
2002年4月	東洋大学文学部教育学科	教授（～現在）
	東洋大学大学院文学研究科教育学専攻担当（～現在）	

<東洋大学における担当科目等>

（学部・授業）

教育心理学概論、パーソナリティの諸問題、心理学特殊講義、臨床心理学、発達障害児の教育臨床、発達障害児・者の心理、発達障害児指導技法、知的障害児・者の心理と臨床、カウンセリングの理論と実際、教育学入門ゼミナール、教職総合ゼミナール、教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ等

（大学院・前期課程〔前〕授業、後期課程〔後〕授業）

臨床教育心理学特殊講義〔前〕、臨床教育心理学演習〔前〕、心理発達学特殊講義〔前〕
教育学研究指導〔前〕、教育学特殊研究〔後〕、教育学研究指導〔後〕

（学内における役職等）

教育学科第一部主任（2007年度）

教育学科第二部主任（2006年度）

東洋大学人間科学総合研究所付設発達臨床相談室室長（2007年4月～現在、ただし2011年度を除く）

2部体育会陸上競技部部長（2010年4月～現在）

<学会及び社会における活動>

（所属学会等）

1976年4月 日本教育心理学会 会員（～現在）

1976年4月 日本心理学会 会員（～現在）

1977年4月 日本異常行動研究会（1993年5月に日本行動科学会に改称） 会員（～現在）

1980年4月 日本特殊教育学会 会員（～現在）

- 1980年4月 日本行動分析学会 会員（2003年4月～2005年3月 常任理事、2005年4月～2015年4月 監事、2015年5月～現在 代議員）
- 1980年4月 日本精神薄弱研究協会（1992年4月に日本発達障害学会に改称） 会員（2003年4月～2009年3月 評議員・編集委員、2009年4月～2013年3月 監事）（～現在）
- 1985年4月 日本ポーターズ協会 会員（2000年4月にNPO法人、2014年1月に認定NPO法人、2012年6月～現在 会長）
- 1987年4月 日本行動療法学会 会員（～現在）
- 1990年4月 全日本特殊教育研究連盟（2001年4月に全日本特別支援教育研究連盟に改称） 全国大会 助言者（2000年度を除く）（1995年4月～2008年3月 理事・評議員）（～2009年10月）
- 1992年4月 日本発達心理学会 会員（～現在）
- 2000年4月 学会連合「学校心理士」認定運営機構 資格認定委員（～2009年3月）
- 2003年4月 東京都立江東養護学校 学校評議員・評価委員（～2008年3月）
- 2004年4月 東京都立高島養護学校 学校評議員（～2008年3月）
- 2009年4月 日本共生科学会 会員（2009年4月～現在 常任理事）
- （学会等における主な活動）
- 1992年9月 「ダウン症乳幼児の早期教育における発達アセスメントと指導計画の作成への連携（ワークショップ4）」日本特殊教育学会第30回大会（東北大学）シンポジスト
- 1994年9月 「早期療育とアジアのCBR活動—ポーターズプログラムの適用の現状（シンポジウムⅣ）」日本特殊教育学会第32回大会（明治学院大学）シンポジスト
- 1995年9月 「特殊教育における診断と治療教育の統合をめざして（4）—発達援助のための親参加について—（自主シンポジウム）」日本特殊教育学会第33回大会（秋田大学）シンポジスト
- 2004年2月 「企画シンポジウム1 アジアにおけるインクルージョン教育の発展」第16回アジア知的障害会議シンポジウム（東京・つくば国際会議場）コーディネーター・司会
- 2005年9月 「特別支援教育体制モデル事業の成果を踏まえて」東洋大学人間科学総合研究所主催公開シンポジウム（東洋大学）コーディネーター・司会
- 2007年6月 「現代の子どもたちが抱える“問題”を解決するために」東洋大学人間科学総合研究所付設発達臨床相談室公開シンポジウム（連続7回講義）（東洋大学）シンポジスト・企画・司会（～2008年1月）
- （社会における主な活動）
- 1999年11月 「シンポジウムB1 早期対応—就学相談と理解・啓発」全日本特殊教育研究連盟50周年記念大会（東京・ホテル・グランパシフィック）コーディネーター・司会
- 2002年10月 第41回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「第1分科会 早期教育」（京都府大会）助言者
- 2002年11月 平成14年度旭出学園三木記念館公開講座（東京・旭出学園）講師
- 2003年7月 「発達障害児への子育て支援—すこやかな育ちをささえる：ポーターズプログラムによる指導—評価法と課題のすすめ方」発達協会実践セミナー講座（東京・江東区）講師
- 2003年7月 「日常生活のなかで能力を伸ばすために」日本ポーターズ協会横浜鎌倉支部懇談会（神奈川・社会福祉会館）講師
- 2004年3月 「行動障害のある人たちへの肯定的な支援を考える—“問題行動”の機能アセスメントと機能分析を中心に—」早期療育・教育を考える会（宮城・古川市）講師
- 2004年6月 「CBRとしてのポーターズ活動—成都（四川省・中国）におけるポーターズワークショップ—」日本ポーターズ協会講演と研究発表会（東京・杉並区）講師
- 2005年7月 「新版ポーターズ早期教育プログラムによる早期対応と家族支援」東洋大学「生涯学習」支援プログラム（茨城・茨城県立内原養護学校）講師

- 2005年 9 月 「“問題行動”のある児童生徒の援助」東洋大学「生涯学習」支援プログラム（北海道・帯広養護学校）講師
- 2005年10月 第44回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「第15分科会 就学・教育相談」（名古屋大会）助言者
- 2005年11月 「インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム」第5回グループ指導研究協議会（茨城・東海村テクノ交流館リコッティ・総合福祉センター）講師
- 2005年12月 「“問題行動”の理解と対処」加須市青少年健全育成協議会北地区大会（埼玉・加須市）講師
- 2005年12月 「保育園・幼稚園における“問題行動”の理解と対処」（金沢・金沢市教育プラザ富樫平）講師
- 2005年12月 「学校教育の心理学を学ぶ一子どもの“問題行動”とは？」（埼玉県立川口高校）講師
- 2007年 8 月 ポーテージプログラム研修セミナー in盛岡（初級）（岩手・盛岡市）講師
- 2007年 9 月 「障害のある幼児の理解と保育」こころ保育園研修（東京・多摩市）講師
- 2007年10月 第46回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「第1分科会 早期教育」（佐賀大会）助言者
- 2007年12月 「高校生の“問題行動”の理解と対処」（群馬・東部地区生徒指導部会研修）講師
- 2008年 1 月 「事例研究とは—ポーテージ指導の過程分析と倫理」第22回ポーテージプログラムセミナー（中級）（東京・サンピア多摩）講師
- 2008年 5 月 「ポーテージプログラムによる早期からの発達支援」幼児の発達と特別な支援 多摩・障害のある人たちを支援する会（東京・多摩市）講師
- 2008年 7 月 「学校の中の障害のある子どもたちの理解と支援」（連続5回）東洋大学人間科学総合研究所付設発達臨床相談室公開ワークショップ（東洋大学）講師・企画（～2008年12月）
- 2008年 8 月 「特別支援教育Ⅲ」東京都教職員研修センター研修会（東京都教職員研修センター）講師
- 2008年10月 文部科学省委託「周産期からの子育て支援拡充に向けた専門職再教育プログラム開発」ポーテージプログラム初級講座（島根県立大学短期大学）講師
- 2008年10月 第47回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「第14分科会 LD・ADHD・高機能自閉症等支援が必要な児童生徒への通常の学級での対応」（京都市大会）助言者
- 2009年 8 月 教員免許状更新講習（選択）（必修）（東洋大学）講師
- 2009年 8 月 「特別支援教育ⅡB」東京都教職員研修センター研修会（東洋大学）講師
- 2009年 9 月 「応用行動分析をもっと学ぼう」（星槎大学湘南大磯キャンパス）講師
- 2009年 9 月 ポーテージプログラム初級セミナー（島根県立大学短期大学）講師
- 2009年10月 第48回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「第2分科会 早期教育」（山形大会）助言者
- 2010年 7 月 「早期からの子育て支援と家族支援」茨城県ポーテージ協会研修会（茨木・つくば国際会議場）講師
- 2010年 8 月 「特別支援教育ⅡA」東京都教職員研修センター研修会（東洋大学）講師
- 2010年 9 月 「問題行動の理解と対処について」国立秩父学園新任職員研修会（埼玉・秩父学園）講師
- 2010年12月 ポーテージプログラム一日セミナー（兵庫・洲本市）講師
- 2010年12月 親のためのポーテージプログラム学習会（宮城・大崎市）講師
- 2010年12月 「応用行動分析の原理の適用」東京都立葛飾ろう学校中学部研修会（東京・葛飾区）講師
- 2011年 8 月 「特別支援教育Ⅳ」東京都教職員研修センター研修会（東京都教職員研修センター）講師
- 2011年 9 月 「新版ポーテージ早期教育プログラム」研修会（板橋区加賀福祉園児童ホーム）講師
- 2011年10月 「ポーテージプログラム研修セミナー」（初級）小松市発達障がい療育セミナー（石川・小松市）講師
- 2011年11月 「大学と学校とのより良いコラボレーションをめざして」大学教育推進プログラム国際シンポジウム（東洋大学円了ホール）分科会コーディネーター・司会
- 2012年 2 月 「“問題行動”の理解と対処」東海村社会福祉協議会障害者センター研修会（茨城・東海

村) 講師

- 2012年 5月 「日常のなかの保育の工夫」 ころろ保育園研修会 (東京・多摩市) 講師
- 2012年 6月 グループ指導カリキュラム研修会 (茨城・常総市児童デイセンター) 講師
- 2012年 9月 ポーテージプログラム一日セミナー (秋田・秋田県立医療療育センター) 講師
- 2012年11月 グループ指導カリキュラム研修会 (岐阜・可児市児童発達支援センター「くれよん」) 講師
- 2012年12月 ポーテージプログラム研修会 (神奈川・ほうあんふじ児童発達支援センター) 講師
- 2012年12月 「第3回 インクルージョン教育における“行動問題”の理解と行動支援—応用行動分析学からのアプローチ—」 日本ポーテージ協会連続公開講座 (東洋大学) 講師
- 2013年 1月 第51回ポーテージプログラム研修セミナー (初級) (大阪・泉が丘ビックアイ) 講師
- 2013年 2月 「ポーテージプログラム」平成25年度応用コース (佐賀・佐賀県療育支援センター) 講師
- 2013年 2月 グループ指導カリキュラム研修会 (岐阜・可児市児童発達支援センター「くれよん」) 講師
- 2013年 4月 グループ指導カリキュラム研修会 (千葉・みなみ高柳保育園) 講師
- 2013年 5月 「問題行動の理解と対処」 ころろ保育園研修会 (東京・多摩市) 講師
- 2013年 6月 グループ指導カリキュラム研修会 (岐阜・可児市児童発達支援センター「くれよん」) 講師
- 2013年 7月 グループ指導カリキュラム一日セミナー (神奈川・川崎市中央療育センター) 講師
- 2013年 7月 グループ指導カリキュラム研修会 (千葉・みなみ高柳保育園) 講師
- 2013年 8月 ポーテージプログラム一日セミナー (秋田・児童デイサービス「若竹学園」) 講師
- 2013年10月 グループ指導カリキュラム研修会 (八王子・すぎな愛育園) 講師
- 2013年11月 親のためのポーテージプログラム学習会 (石川・かんぽの宿八代) 講師
- 2013年11月 第28回ポーテージプログラム研修セミナー (中級) (石川・かんぽの宿八代) 講師
- 2014年 1月 ポーテージプログラム研修会 (佐賀・佐賀県療育支援センター) 講師
- 2014年 7月 ポーテージプログラム一日セミナー (神奈川・川崎市中央療育センター) 講師
- 2014年 8月 ポーテージプログラム研修会 (応用コース) (佐賀・佐賀県療育支援センター) 講師
- 2014年 8月 「早期からの発達相談と親・家族支援—新版ポーテージ早期教育プログラムによる実践と“問題行動”の応用行動分析—」平成26年度東洋大学全国講師派遣事業 (宮城県立迫支援学校) 講師
- 2014年10月 ポーテージプログラム研修セミナー in 富山 (初級) (富山・富山市恵光学園) 講師
- 2015年 1月 「発達が気になる子どもの子育てとポーテージプログラム—子育てに活かすABAのはなし」家族のための発達が気になる子どもたちのセミナー (神奈川・鎌倉市福祉センター) 講師
- 2015年 1月 第58回ポーテージプログラム研修セミナー (初級) (大阪・和泉シティプラザ) 講師
- 2015年 2月 ポーテージプログラム一日セミナー (石川・加賀市) 講師
- 2015年 3月 第31回ポーテージプログラム研修セミナー (中級) (愛知・ウィंक愛知) 講師
- 2015年 3月 グループ指導カリキュラム一日セミナー (大阪・泉南市子ども総合支援センター) 講師
- 2015年 3月 「応用行動分析の基本—“問題行動”の理解と対処」日本精神遅滞研究会春季講座 (神奈川・伊東) 講師
- 2015年 6月 「インクルージョン保育について」研修会 (神奈川・川崎市中央療育センター) 講師
- 2015年 8月 ポーテージプログラム東京研修セミナー「ポーテージプログラムの応用」平成27年度人間科学総合研究所特別研究「発達臨床相談における相談員の研修と相談支援活動」(東洋大学) 講師
- 2015年 8月 ポーテージプログラム研修会 (応用コース) (佐賀・佐賀県療育支援センター) 講師
- 2015年 9月 第33回認定相談員事例研究会 (大阪・堺市総合福祉会館) 講師・助言者
- 2015年10月 「障がいのある子どもの“問題行動”の理解と対処」平成27年度東洋大学全国講師派遣事業 (埼玉・さいたまファミリーサポートセンター) 講師
- 2015年10月 ポーテージプログラム大阪研修セミナー「ポーテージプログラムの応用」平成27年度人

- 間科学総合研究所特別研究「発達臨床相談における相談員の研修と相談支援活動」(大阪・アネックスパル法円坂) 講師
- 2015年11月 ポーテージ一日セミナー 盛岡支部・ポーテージ療育教室「ぼっけ」(岩手・アイーナ)講師
- 2015年12月 ポーテージプログラム富山研修セミナー「ポーテージプログラムの応用」平成27年度人間科学総合研究所特別研究「発達臨床相談における相談員の研修と相談支援活動」(富山・富山市恵光学園) 講師
- (国外におけるセミナー等活動)
- 2002年11月 「A process analysis of the Portage teaching for children with developmental delays」第9回国際ポーテージ会議(パフォス・キプロス) 講師
- 2003年9月 ポーテージプログラム・ワークショップ(聖愛教育科学センター)(成都・中国) 講師
- 2005年12月 「ポーテージプログラム・ワークショップ」第17回アジア知的障害会議プレカンファレンス・ワークショップ(ジョグジャカルタ・インドネシア) 講師
- 2006年9月 「The making of a newly-revised Japanese version of “Portage Early Education Program”」第11回国際ポーテージ会議(リガ・ラトビア) 講師
- 2008年9月 「Group Teaching Curriculum Based on Portage Principle」第12回国際ポーテージ会議(フローニンゲン・オランダ) 講師
- 2009年11月 「ポーテージプログラム・ワークショップ」第19回アジア知的障害会議プレカンファレンス・ワークショップ(シンガポール) 講師
- 2010年9月 「ポーテージプログラム・ワークショップ」第13回国際ポーテージ会議プレカンファレンス・ワークショップ(チャンディーガル・インド) 講師
- 2011年8月 「ポーテージプログラム・ワークショップ」第20回アジア知的障害会議プレカンファレンスワークショップ(済州・韓国) 講師
- 2012年10月 「日本ポーテージ協会の“新生”の時代」第14回国際ポーテージ会議(トビリシ・グルジア) 講師
- 2013年10月 「アジアのポーテージ」第21回アジア知的障害会議プレカンファレンスワークショップ(ニューデリー・インド) 講師
- 2014年3月 ポーテージプログラム・ワークショップ(バネパ・ネパール) 講師
- 2014年7月 ベトナム・ドンナイ省・ラムドン省におけるインクルージョン教育キーティーチャー養成研修セミナー(ホーチミン・ベトナム) 講師
- 2015年3月 ポーテージプログラム・ワークショップ(バグルング・ネパール) 講師
- 2015年6月 ベトナム・ドンナイ省・ラムドン省におけるインクルージョン教育キーティーチャー養成研修セミナー(ダラット・ベトナム) 講師
- 2015年10月 「アジアのポーテージ」第22回アジア知的障害会議プレカンファレンス・ワークショップ(コロンボ・スリランカ) 講師

著作目録(著書)

<編著・共著>

- 2000年1月 『発達障害指導事典(第二版)』(編著) 学習研究社
- 2005年5月 『記念論文集 発達遅滞乳幼児の早期教育の発展』(編著) 日本ポーテージ協会
- 2005年6月 『新版ポーテージ早期教育プログラム』(共著) 日本ポーテージ協会
- 2005年10月 『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』(共著) 日本ポーテージ協会
- 2011年11月 『さらなる輝きを一創立25周年を記念して一』(編著) 日本ポーテージ協会
- 2012年11月 『続・ポーテージで育った青年たち 輝いて今をいきいきと一早期からの発達相談と親・家族支援をすすめて』(編著) ジアース教育新社

- 2013年 6 月 『ポータージプログラム入門—新版ポータージ早期教育プログラム一日セミナーテキスト』（編著）日本ポータージ協会
- 2013年 7 月 『新版ポータージ早期教育プログラム 初級研修セミナーテキスト』（編著）日本ポータージ協会
- 2015年 5 月 『ポータージ相談員ハンドブック—家族の協力と親のエンパワメントのために—』（編著）日本ポータージ協会
- 2015年 7 月 『発達が気になる子どものためのポータージプログラム入門—0歳から家庭でできる発達支援—』（編著）合同出版
- 2015年11月 『ポータージプログラムとは?』（編著）日本ポータージ協会

<分担執筆>

- 1981年 1 月 『新版心理学辞典』 平凡社
- 1983年 3 月 『性格心理学ハンドブック』 金子書房
- 1983年 6 月 『ことばの獲得 言語行動の基礎と臨床』 川島書店
- 1984年 2 月 『精神薄弱児の指導事例集 7 アセスメントと評価』 明治図書
- 1985年 7 月 『オペラント行動の基礎と臨床—その進歩と展開』 川島書店
- 1985年 9 月 『実践精神遅滞児の教育 1 障害幼児』 第一法規
- 1985年11月 『ポータージプログラムによる発達遅滞乳幼児の早期教育事例集 子らはあゆむ』 主婦の友社
- 1985年12月 『講座発達障害 第4巻指導法Ⅱ言語遅滞・学習障害』 日本文化科学社
- 1987年 4 月 『パーソナリティの心理学』 福村出版
- 1988年 4 月 『療育技法マニュアル第2集 発達障害編』 神奈川県児童医療福祉財団
- 1989年 1 月 『教育治療ハンドブック』 福村出版
- 1990年 7 月 『新教育学大事典』 第一法規
- 1990年 9 月 『障害児指導の方法』 学苑社
- 1992年 3 月 『言語障害療育訓練ハンドブック』 日本精神薄弱者福祉連盟
- 1993年 5 月 『ことばの指導ハンドブック 発達の遅れと教育 別冊』 日本文化科学社
- 1994年 7 月 『実践のための指導技法 選択と活用のガイド 発達の遅れと教育 7月臨時増刊』 日本文化科学社
- 1995年 1 月 『発達心理学辞典』 ミネルヴァ書房
- 2000年 6 月 『Encyclopedia of Special Education Second Edition』 John Wiley & Sons
- 2001年11月 『ポータージで育った青年たち—発達に遅れのある子の乳幼児からの成長の歩み—』 二瓶社
- 2002年 6 月 『自閉症の臨床と教育』 田研出版
- 2002年11月 『ポータージで育った青年たち—発達に遅滞のある乳幼児の成長の記録—』 ぶどう社
- 2006年 2 月 『専門職のためのてんかん援助マニュアル5』 日本てんかん協会東京都支部
- 2006年 8 月 『学校心理学ガイドブック（第1版）』 風間書房
- 2010年 5 月 『理学療法スーパーバイズマニュアル—臨床実習生・新人理学療法士指導のために—』 南江堂
- 2011年 5 月 『発達支援学：その理論と実践—育ちが気になる子の子育て支援体系』 協同医書出版社
- 2012年 3 月 『変革期にあるヨーロッパの教員養成と教育実習』 東洋館出版
- 2012年 8 月 『発達障害支援ハンドブック 医療、療育・教育、心理、福祉、労働からのアプローチ』 金子書房

<監訳>

- 1982年 6 月 『臨床心理学の歴史』（分担訳）誠信書房

- 2001年7月 『行動分析学からの発達アプローチ』（共監訳）二瓶社
 2002年10月 『自閉症児の発達と教育—積極的な相互交渉をうながし、学習機会を改善する方略—』（共監訳）二瓶社
 2005年11月 『自閉症児の親を療育者にする教育—英国における応用行動分析学の成果と発展—』（共監訳）二瓶社
 2015年6月 『行動障害の理解と適切行動支援—英国における行動問題の対処アプローチ—』（監訳）ジアース教育新社

<その他>

- 2008年8月 『DVD版 育ち合う保育—インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム（日本語版・英語版）』（企画・構成）映像情報センター
 2014年12月 「ポーターページプログラム」『DVD版 障害児への専門的指導法 全1巻』（企画・構成）アローウィン
 2015年6月 『DVD版 輝いて今を生き活きと』（企画・構成）映像情報センター

著作目録（論文）

<単著>

- 1980年11月 「幼児の自己強化についての実験的検討」『特殊教育研究施設報告29』
 1986年9月 「言語発達遅滞児への実用言語の指導—行動分析にもとづく機能的言語の形成過程—」『聴覚言語障害15（2）』
 1988年10月 「乳幼児期における発達アセスメント—心理学領域から—」『発達障害研究（10）1』
 1989年2月 「単一被験者実験計画法の利用とその諸問題」『特殊教育研究施設報告38』
 1990年2月 「親の訓練：精神遅滞乳幼児の親による家庭指導についての検討（第2報）」『特殊教育研究施設報告39』
 1991年2月 「A Follow up Study on the Japanese Version of the Portage Guide to Early Education」『特殊教育研究施設報告40』
 1992年2月 「精神遅滞児の遊びの指導」『特殊教育研究施設報告41』
 1993年2月 「ポーターページ指導の過程分析（1）—ダウン症児への早期指導の事例を通して—」『特殊教育研究施設報告42』
 1994年2月 「発達障害児（者）への日常生活・社会的スキルの指導（1）」『特殊教育研究施設報告43』
 1995年3月 「発達遅滞乳幼児の早期教育カリキュラムの発展—“ポーターページ乳幼児教育プログラム”から“育つ：誕生から3歳”へ—」『東京学芸大学紀要第1部門教育科学第46集』
 1995年12月 「ポーターページ指導の過程分析（2）—父親の参加と家族支援に関連して—」『特殊教育研究施設年報1995』
 1996年1月 「論説 障害児の早期教育相談の実際」『季刊特殊教育83』
 1996年12月 「ポーターページ指導の過程分析（4）—ダウン症児の早期指導の事例を通して その2 就学まで—」『特殊教育研究施設年報1996』
 1997年3月 「ポーターページ指導の過程分析（3）—障害が重い乳幼児への適用をもとに—」『東京学芸大学紀要第1部門教育科学第48集』
 1997年12月 「特別な教育的ニーズに応じた個別教育計画の作成のためのアセスメントの実際—アメリカ合衆国インディアナ州の場合を例に—」『特殊教育研究施設年報1997』
 1998年3月 「発達障害乳幼児の早期療育とCBR活動—アジア地域におけるポーターページ・モデルの適用を中心にして—」『東京学芸大学紀要第1部門教育科学第49集』
 1998年12月 「乳幼児期のアセスメントと行動発達に関する検討：発達障害児に対する生態学的インベントリーと機能アセスメントの応用に関連して」『特殊教育研究施設研究年報1998』

- 1999年 2 月 「“障害者”に出会う—障害がある人への対応を考える—」『発達障害研究20（4）』
- 1999年 3 月 「知的障害者本人の障害理解と心理的支援—本人による障害の認識と対応のための面談調査から—」『東京学芸大学紀要第1部門教育科学第50集』
- 1999年12月 「知的障害者の地域社会におけるよりよい生活を支援するために—QOLの概念と評価に関する検討」『特殊教育研究施設年報1999』
- 2000年12月 「障害乳幼児とその家族のための早期療育の発展：アメリカ合衆国における障害児教育法と早期対応の現状」『特殊教育研究施設年報2000』
- 2002年 2 月 「A Behavioral Approach to the Management of Self-Injurious Behavior」『特殊教育研究施設研究報告第1号』
- 2002年 3 月 「英国の特別なニーズ教育と早期対応の現状—ポータージ・サービスとインクルージョン研究プロジェクトを中心に—」『東京学芸大学紀要第1部門教育科学第53集』
- 2003年 3 月 「発達に障害のある乳幼児への早期教育と家族支援に関する諸問題（1）—natural environment（自然な環境）とleast restrictive environment（最も制約の少ない環境）の概念をめぐる—」『東洋大学文学部紀要第56集教育学科編 XXVIII』
- 2003年 3 月 「発達に障害のある乳幼児の早期からの発達支援プログラムの理念と実際—『育つ：誕生から3歳』による家族中心アプローチを例に—」『東洋大学発達臨床研究紀要第3号』
- 2004年 3 月 「発達に障害のある乳幼児への早期教育と家族支援に関する諸問題（2）—特殊教育を受けるための資格（eligibility）に関して—」『東洋大学文学部紀要第57集教育学科編 XXIX』
- 2005年 2 月 「ポータージ・モデル—発達の遅れた乳幼児とその家族のための早期介入の理念と発展—」『東洋大学文学部紀要第58集教育学科編 XXX』
- 2006年 2 月 「自閉症における“心の理論”の発達と指導—感情の理解と表出に関する検討を中心に—」『東洋大学文学部紀要第59集教育学科編 XXXI』
- 2007年 3 月 「発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題（3）—早期発達支援における“発達にふさわしい実践（Developmentally Appropriate Practice）”の適用について—」『東洋大学文学部紀要第60集教育学科編 XXXII』
- 2008年 3 月 「フィンランドの特別ニーズ教育—教育の平等と“学習困難（Learning Difficulties）”を示す児童生徒の教育—」『東洋大学文学部紀要第61集教育学科編 XXXIII』
- 2009年 2 月 「発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題（4）—適切行動支援（Positive Behavior Support：PBS）にもとづく早期行動介入と親・家族支援について—」『東洋大学文学部紀要第62集教育学科編 XXXIV』
- 2010年 2 月 「発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題（5）—『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム—“遊び単位”中心の多層水準指導—』の開発と実践に関して—」『東洋大学文学部紀要第63集教育学科編 XXXV』
- 2010年 3 月 「小論 幼児期の共に育ち合う教育と支援」『発達の遅れと教育3月号』（日本文化科学社）
- 2011年 2 月 「発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題（6）—自閉症幼児に対する早期集中行動介入（early intensive behavioral intervention）の効果の評価に関する検討—」『東洋大学文学部紀要第64集教育学科編 XXXVI』
- 2012年 2 月 「発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題（7）—親参加と家族中心早期介入アプローチ（family-centered early intervention approach）の特徴と効果について—」『東洋大学文学部紀要第65集教育学科編 XXXVII』
- 2013年 2 月 「発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題（8）—日常生活場面における罰を使わない早期介入のための“問題行動（challenging behavior）”の理解と対処について—」『東洋大学文学部紀要第67集教育学科編 XXXVIII』
- 2013年 6 月 「新しきもの出で立つ思い—星槎大学共生科学研究会編『共生科学研究序説』を読んで—」『共生科学第4巻』

- 2014年2月 「発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題（9）—『親と教師のための学齢期の子どもの行動支援プログラム—家庭・学校・地域における豊かな生活をめざして—』の開発と指導の進め方について—」『東洋大学文学部紀要 第67集 教育学科編 XXXIX』
- 2015年3月 「発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題（10）—ネパールにおける早期発達支援システム構築のためのポータージプログラムの適用とCBR活動の支援—」『東洋大学文学部紀要第68集教育学科編 XL』

<共著>

- 1984年6月 「ポータージプログラムの適用によるダウン症児の早期教育」『発達障害研究（6）1』
- 1986年12月 「ポータージプログラム」『発達障害研究（8）3』
- 1994年2月 「発達遅滞乳幼児の早期教育におけるグループ指導の理論と実際」『明治学院論叢540』
- 1996年5月 「精神遅滞児における買物スキルの形成と般化に関する研究」『行動分析学研究9（1）』
- 1999年3月 「ダウン症生徒におけるビデオモデリングを用いた買物スキルの形成に関する検討」『行動分析学研究13（1）』
- 2002年2月 「知的障害がある子どもの母親の自己受容：文献研究と今後の課題についての検討」『特殊教育研究施設研究報告第1号』
- 2004年3月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（1）—関連諸機関との協働の在り方を中心に—」『東洋大学人間科学総合研究所紀要 創刊号』
- 2005年3月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（2）—地域における支援システムの構築と就学前からの特別支援教育の展開をめぐって—」『東洋大学人間科学総合研究所紀要第4号』
- 2006年3月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（3）全国及び東京都における特別支援教育体制の推進の現況を中心にして」『東洋大学人間科学総合研究所紀要第6号』
- 2007年3月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（4）」『東洋大学人間科学総合研究所紀要第7号』
- 2008年3月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（5）—小学校、中学校、高等学校の通常学級に在籍する児童生徒に対する個別的教育支援計画の作成と実施のための総合的検討—」『東洋大学人間科学総合研究所紀要第9号』
- 2008年7月 「障害幼児をもつ家族に対する通園施設の役割—就学相談のあり方について—」『発達障害研究30（3）』
- 2009年4月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（6）—特別支援教育の現状と課題：幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における特別支援教育の進捗を中心として—」『東洋大学人間科学総合研究所紀要第11号』
- 2009年6月 「インクルージョン保育を展開するための“幼児・グループ指導カリキュラム（Group Teaching Curriculum for Inclusive Preschool Education）”（共同研究）『星槎大学附属研究センター研究報告書No.3』
- 2009年6月 「海外各国におけるポータージプログラム活動—第12回国際ポータージ会議の発表から—」（共同研究）『星槎大学附属研究センター研究報告書No.3』
- 2010年3月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（7）—就学前から特別支援教育へ、そして特別支援教育から卒業後の社会参加への移行支援計画に関する総合的検討—」（共同研究）『東洋大学人間科学総合研究所紀要第12号』
- 2011年3月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（8）—「往還型教育実習システム（東洋大学モデル）」を応用した特別な教育的ニーズのある児童への対応について—」『東洋大学人間科学総合研究所紀要第16号』

- 2013年 3 月 障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（9）—高等学校における特別支援教育の現状と課題について—『東洋大学人間科学総合研究所紀要第16号』
- 2014年 8 月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（10）—高等教育における発達障害のある学生の支援の現状と課題について—」『東洋大学人間科学総合研究所紀要17号』
- 2015年 8 月 「障害児（者）の生涯発達支援システムの設計と実践（11）—特別支援教育におけるICT活用の現状と課題について—」『東洋大学人間科学総合研究所紀要18号』

<研究報告書>

- 1984年 3 月 「精神遅滞児・自閉症児へのサイン言語指導に関する諸問題」『昭和59年度文部省科学研究費研究成果報告書』（分担研究者）
- 1994年 3 月 「特殊教育における教育診断システムの開発に関する研究：発達障害児の幼児期における適正処遇をめざした診断情報の収集に関する研究」『平成4～5年度文部省特定研究報告書』（分担研究者）
- 1998年 3 月 「アジアの途上国における知的障害児の早期療育を中心とするCBR活動（Community-Based Rehabilitation）の調査研究と研修事業」『平成8年度三菱財団社会福祉助成研究報告書』（分担研究者）
- 1998年 3 月 「発達障害を持つ児童・生徒の適正な個別指導計画の作成—附属養護学校における特別な教育ニーズの情報と管理についての研究—」『平成9年度東京学芸大学教官研究費研究報告書』（分担研究者）
- 1999年 3 月 「発達障害乳幼児の発達援助と家族支援のための早期対応カリキュラムの開発と適応：日本版『育つ：誕生から3歳』カリキュラム」『科学研究費研究成果報告書：平成8～10年度』（研究代表者）
- 2001年 3 月 「発達障害児の個別教育計画作成に伴う教員支援システムの構築」『平成10～12年度文部省科学研究費研究成果報告書』（分担研究者）
- 2001年 3 月 「自閉症の判定基準の洗練化とフィールド調査に関する研究」『平成10～12年度厚生科学研究費研究成果報告書』（分担研究者）
- 2003年 3 月 「発達遅滞乳幼児のグループ指導カリキュラムの開発に関する研究」『平成14年度大同生命研究助成研究報告書』（分担研究者）
- 2004年 2 月 「高機能広汎性発達障害の社会的不適応の評価に関する研究『高機能広汎性発達障害の社会的不適応とその対応に関する研究』（『平成13～15年度厚生科学研究費補助金障害保健総合福祉研究事業研究報告書』）（分担研究）
- 2006年 3 月 「幼児及び自閉症児（者）の“心の理論”の発達と感情理解に関する検討—誤信念課題の文脈における表情認知の適切性について—」『平成15年度～平成17年度文部科学省科学研究費研究成果報告書』（分担研究）



米澤 正雄 教授

米澤正雄

略歴・著作目録

米澤正雄 略歴・著作目録

略 歴

1950年11月27日生まれ（青森県）

<学歴>

1973年 3 月 新潟大学教育学部小学校教員養成課程卒業
 1973年 4 月 新潟大学教育専攻科入学
 1974年 3 月 新潟大学専攻科修了
 1974年 4 月 東京学芸大学大学院修士課程教育学研究科学校教育専攻入学
 1976年 3 月 東京学芸大学大学院修士課程教育学研究科学校教育専攻修了
 1976年 4 月 筑波大学大学院博士課程教育学研究科第3年次編入（教育哲学専攻）
 1981年 3 月 筑波大学大学院博士課程教育学研究科教育哲学専攻単位取得退学
 1981年 4 月 筑波大学研究生（1983年3月まで）

<職歴>

1975年10月 東京都杉並区立浜田山小学校 講師（体育科担当）（1976年3月まで）
 1976年 1 月 東京都杉並区立高井戸東小学校 講師（体育科担当）（1976年3月まで）
 1976年 4 月 東京都杉並区立和泉小学校 講師（体育科担当）（1976年5月まで）
 1976年 5 月 東京都杉並区立杉並第三小学校 講師（全科、特殊学級担当）（1977年3月まで）
 1976年 5 月 東京都杉並区立杉並第三小学校 講師（全科担当）（1976年8月まで）
 1981年 4 月 厚生省看護研修研究センター 講師（「論理的思考」担当）（1982年7月まで）
 1982年 4 月 常磐学園短期大学 非常勤講師（「教育原理」担当）（1983年3月まで）
 1983年 4 月 常磐大学人間科学部 専任講師（「教育思潮論」、「教育史」、「教育学外書購読Ⅰ」、「ゼミナール」、「卒業論文」、「教育原理」（通年科目の半期分）を担当）
 1986年10月 東京学芸大学 非常勤講師（「教育原理Ⅲ」担当）（1987年3月まで）
 1988年 4 月 常磐大学人間科学部 助教授（1991年3月まで）
 1988年 7 月 国立身体障害者リハビリテーションセンター 非常勤講師（「教育原理」担当）
 1991年 4 月 秋田大学教育学部 助教授（学部担当科目は「教育概論A」、「教育方法学C」、「教育哲学」、「教育哲学演習」（以上、すべて半期科目）、「教育方法学演習」（通年科目）、「教育学演習Ⅱ」（45分隔週通年科目）、「人間形成論」（鉱物学部・医学部学部学生対象の半期科目、90分を2回ずつ持ち回り）。大学院担当科目は「教育哲学特論」、「教育哲学演習」（ともに半期科目））（1996年3月まで）
 1994年 4 月 秋田県立衛生看護学校 非常勤講師（「教育方法学」担当）（1994年7月まで）
 1995年 4 月 秋田県立衛生看護学校 非常勤講師（「教育原理」担当）（1995年6月まで）
 1996年 4 月 実践女子大学文学部 教授（「教育理論」、「教育制度」、「道德教育の研究」、「教職特別講義」（在職中に「教師論」と科目名変更）、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」（以上、すべて半期科目）、「教育学概論」（通年、博物館学芸員資格科目））（2001年3月まで）
 1997年 4 月 筑波大学 非常勤講師（「教育基礎学」担当）（2000年3月まで）
 1998年 4 月 東邦大学佐倉看護専門学校 非常勤講師（「哲学」担当）（2010年3月まで）
 1999年 4 月 鳴門教育大学学校教育研究センター 国内客員研究員（プロジェクト・テーマ「教師の実践力育成と教師教育」）（2000年3月まで）
 2001年 4 月 東洋大学文学部 教授〔学部担当科目は「教育学概論」（1部・2部ともに通年）、「教育学演習Ⅰ・Ⅱ」（1部、通年）、「教育思想・教育哲学」（1部・2部ともに通年、

2008年3月まで担当)、「アメリカ思想史」(半期科目、1部・2部ともに2008年4月から2014年3月まで担当、なおこの科目は教育学科初等教育専攻開設に伴うカリキュラム改訂により2008年4月から「教育思想・教育哲学」の前期分「教育思想」を「アメリカ思想史」に名称変更したものである)、「社会文化史(西洋)」(半期科目、1部・2部ともに2014年度および2015年度に担当)。大学院博士前期課程担当科目は「教育学説研究特殊講義」、「教育学説史研究特殊講義」、「教育学説研究演習」、「教育学研究指導」(ともに通年、2002年4月から2008年3月まで担当)、2008年4月から2014年3月まで「教育学説研究特殊講義」・「教育学説研究演習」(ともに隔年開講にして担当、通年)および「教育学研究指導」(通年)、大学院後期課程担当科目は「教育学特殊研究」および「教育学研究指導」(ともに通年、2004年4月から2015年3月まで)。カリキュラム改訂により、大学院前期課程担当科目は「教育学説研究特殊講義」・「教育学説研究演習」・「教育学研究指導」(以上通年科目)、「教育学研究演習A」・「教育学研究演習B」・「教育学研究指導A」・「教育学研究指導B」(以上半期科目)、大学院博士後期課程担当科目は「教育学特殊研究」、「教育学研究指導」(以上通年科目)、「教育学特殊研究A」・「教育学特殊研究B」・「教育学研究指導A」・「教育学研究指導B」(以上半期科目)]。(現在に至る)

- 2008年4月 茨城大学 非常勤講師(人文学部「教育の本質と理念」(半期科目)担当)(2012年3月まで)
- 2015年4月 青山学院大学大学院人間科学研究科 非常勤講師(博士前期課程「教育学特殊講義(前期科目)担当)(2015年9月まで)

＜学会及び社会における活動など＞

(現在所属している学会)

- 1976年10月 日本デューイ学会 会員(現在に至る)
 同学会 会計監査:2001年10月—2010年9月
 同学会 紀要編集委員:2003年10月—2005年10月
 日本デューイ学会五十周年記念事業実行委員会委員:2005年10月—2006年10月
 同学会 理事:2010年9月—(現在に至る)
 日本デューイ学会第56回研究大会準備委員長:2011年10月1日—2012年9月23日
 日本デューイ学会第56回研究大会実行委員長:2012年9月22・23日(於、東洋大学白山キャンパス)
 同学会 紀要編集委員:2013年9月—2015年10月
 同学会 紀要編集委員長:2014年10月—2015年10月
- 1978年8月 日本教育学会 会員(現在に至る)
- 1980年9月 教育哲学会 会員(現在に至る)
 同学会機関誌『教育哲学研究』編集委員:2003年10月—2005年9月
 同学会機関誌『教育哲学研究』常任編集委員:2005年10月—2007年9月
- 1988年12月 教育史学会 会員(現在に至る)
- 1989年1月 アメリカ学会 会員(現在に至る)
- 1999年8月 社会学研究会 同人(現在に至る)
- 2011年10月 関東教育学会 会員(現在に至る)
- 2014年1月 アメリカ教育史研究会 会員(現在に至る)
- (以前所属した学会)
- 1985年10月 日本社会科教育学会 会員(2001年会計年度まで)
- 1986年9月 日本教育方法学会 会員(2006年5月23日まで)

同学会 理事：1994年10月—1997年10月

1997年10月 日本教師教育学会 会員（2005年3月31日まで）

<著書>

- 1988年6月 伊津野朋弘、葉養正明編著『現代教育の探求』協同出版
担当部分：「Ⅱ学びの内容と方法」・「第1章 学びとは何か」、pp. 66-78.
- 1990年8月 教育実践研究会（代表 小川博久）『＜子ども不在＞の教育論批判—「法則化運動」を撃つ！—』大和書房
担当部分：「第9章 教育実践研究に対する教育研究者の任務—藤岡信勝氏における「全員をとばせる技術」論の「正当化」批判—」、pp. 167-184, および「第10章 教材解釈論にもとづく子ども理解の必要性—向山洋一氏の「全員をとばせる技術」論の形成過程批判—」、pp. 185-209.
- 1991年9月 朝倉隆太郎（編集代表）、佐島群已・岑口 俊・涌井澄夫編集『現代社会科教育実践講座 第17巻 社会科における作業的学習の開発』研秀出版
担当部分：「第1章 社会科教育と作業的学習」・「デューイの作業的学習理論—『学校と社会』における環境設定論が社会科教育に提起するもの—」、pp. 56-69.
- 1994年4月 高橋 勝・新井保幸編著『教育学テキストシリーズ① 教育哲学』樹村房
担当部分：「第7章 プラグマティズムと分析哲学」、pp. 93-111.
- 1995年2月 『秋田大学教育学研究—改革と教育 戸田金一教授退官記念号—』秋田大学教育学部教育学研究室
担当部分：「あるポーランド系ユダヤ人女性におけるジェーン・アダムズの思想と行動の受容」、pp. 113-136.
- 2002年11月 米澤正雄編『教師と母の為の哲学 中島義一著作集2』紫峰図書
担当部分：編集および解説・米澤正雄「『中島義一著作集』の刊行に際して」、pp. i-viii.
- 2003年1月 米澤正雄編『こども認識論 林檎の味 中島義一著作集3』紫峰図書
担当部分：編集および解説・米澤正雄「『中島義一著作集』の刊行に際して」、pp. 131-136.
- 2006年3月 新井保幸・高橋 勝編『教育哲学の再構築』学文社
担当部分：「第2部 教育思想史の拓く地平」・「第10章 ジェーン・アダムズのプラグマティズム—論文「ソーシャル・セツルメントの機能」（1899年）におけるデューイ知識論へのトルストイ芸術論の読み込み—」、pp. 137-156
- 2011年12月 石川照子／高橋裕子編著『ジェンダー史叢書2 家族と教育』明石書店
担当部分：「第3部 コミュニティとジェンダー」・「第1章 ジェーン・アダムズはいかにしてセツルメント事業を発見・選択したのか?」、pp. 212-239.
- 2013年11月 米澤正雄編『米澤徳一の生涯と思想および「いずみ会」における国語教壇実践』（私家版、故米澤徳一、三回忌法要記念冊子）、目次、pp. i-iii, 本文、pp. 1-175, あとがき、pp. 176-177, 付録資料「教壇・文章リスト」全6頁、および「年譜」全17頁。

<学術論文>

- 1976年2月 デューイ思想に及ぼしたハル・ハウスの影響（その1）—「キリスト教とデモクラシー」にみられるジェーン・アダムスの影響の持つ意味—
東京学芸大学教育学研究会『教育学研究集録』第6号、pp. 44-62.
- 1977年2月 デューイ思想にあらわれたジェーン・アダムス思想の影響—「一般的な精神と方法」の再考察—

- 東京学芸大学教育学研究会『教育学研究集録』第7号、pp. 25-38.
- 1978年1月 デューイにおける社会についての課題意識と学校論との関係—ハル・ハウス解釈にもとづいた学校論の構想—
- 筑波大学大学院博士課程教育学研究科『教育学研究集録』第1集、pp. 25-38.
- 1978年10月 デューイの思想形成にはたしたジェーン・アダムズの意義 (1) —ハル・ハウス解釈にもとづいた学校論の構想—
- 『日本デューイ学会紀要』第19号、pp. 30-36.
- 1979年3月 文献による海外教育実習の研究—アメリカ教師教育の動向—
- 担当部分:「Ⅱ. 教師センターの役割と問題点—フロリダ州の事例分析を通して—」(米澤正雄、土屋文明、大谷洋子、岡島京子の共著、なお執筆部分は共同研究のため分離不可能)
- 東京学芸大学『教育実習の改善に関する研究』第3集、pp. 203-210.
- 1979年6月 デューイの思想形成にはたしたジェーン・アダムズの意義 (2) —「オキュペーション」導入にもとづいた学校論の再構成—
- 『日本デューイ学会紀要』第20号、pp. 45-50.
- 1980年1月 ジェーン・アダムズのセトルメント事業に対するデューイの評価—「ソーシャル・センター」としての学校論における教師論的視点の欠落—
- 筑波大学大学院博士課程教育学研究科『教育学研究集録』第3集、pp. 5-14.
- 1980年3月 「ソーシャル・センターとしての学校」論の2類型とその比較—セトルメント事業従事者におけるアダムズのアメリカ化批判の卓越性—
- 教育思想研究会編『教育と教育思想』第3集、pp. 10-18.
- 1981年6月 デューイの思想形成にはたしたジェーン・アダムズの意義 (3) —ハル・ハウスの事業への思想的対応としてのシカゴ大学時代の学校論—
- 『日本デューイ学会紀要』第22号、pp. 1-6.
- 1982年3月 ジェーン・アダムズの思想の学校論的意義—アダムズの移民認識に対する先行研究の評価の検討—
- 東京学芸大学教育学教室『教育学研究年報』第1号、pp. 42-57.
- 1983年3月 自己矛盾に気がつかない向山氏の反論—「全員をとばせる技術」の再批判—
- 『現代教育科学』318号、明治図書、pp. 90-95.
- 1985年11月 デューイ教育思想の「児童中心主義」的解釈への批判—『学校と社会』における環境設定論を通して—
- 常磐大学人間科学部紀要『人間科学』第3巻第1号、pp. 35-49.
- 1987年3月 教育実践研究に対する教育研究者の任務—「全員をとばせる技術」論に関する藤岡信勝氏の所論の検討を通して—
- 日本教育方法学会紀要『教育方法学研究』第12巻、pp. 83-90.
- 1988年3月 教育実践研究はどうあるべきか—向山洋一氏の論文「絶えざる追求過程への参加」の検討を通して—
- 教育思想研究会編『教育と教育思想』第8集、pp. 102-110.
- 1988年3月 ジェーン・アダムズの学校教育批判—「初等教育における移民の子どもたち」の検討—
- 常磐大学人間科学部紀要『人間科学』第5巻第2号、pp. 55-63.
- 1988年6月 ジェーン・アダムズのセトルメント論 (1) —『主体の必要性』(1893)におけるセトルメントの把握の意味—
- 『日本デューイ学会紀要』第29号、pp. 104-109.
- 1988年11月 ジェーン・アダムズは単なる「社会学者」か?—メアリー・ジョウ・ディーガン『ジェー

- ン・アダムズとシカゴ社会学派の男性たち1892-1918年』(1988)の検討—
常磐大学人間科学部紀要『人間科学』第6巻第1号、pp. 89-106.
- 1989年6月 ジェーン・アダムズのセツルメント論(2)—1893年のスラム街調査にもとづく移民
の文化の独自性の発見—
『日本デューイ学会紀要』第30号、pp. 68-73.
- 1990年3月 ジェーン・アダムズの思想と実践は「デューイ教育思想の現実的展開」にすぎないの
か?—笠原克博『初期デューイ教育思想の課題—1890年代の社会運動との関連で—』
(法律文化社、1989年)の検討—
教育思想研究会編『教育と教育思想』第10集、pp. 11-21.
- 1990年6月 ジェーン・アダムズのセツルメント論(3)—移民の「大きな情緒的倫理」にもとづ
くセツルメントの「定義」—
『日本デューイ学会紀要』第31号、pp. 81-86.
- 1990年10月 「どの子」も運動イメージの形成を通して腕立て開脚跳び越しの「合理」の獲得を—
向山洋一氏の「全員をとばせる技術」論批判としての斉藤喜博の腕立て開脚跳び越し
指導論—
常磐大学人間科学部紀要『人間科学』第8巻第1号、pp. 47-74.
- 1991年6月 リサックによるアダムズ「神話」批判の検討—ゴードンの「同化」理論との対比にお
いて—
『日本デューイ学会紀要』第32号、pp. 79-85.
- 1992年6月 ジェーン・アダムズのセツルメント論(4)—労働博物館(Labor Museum)の構想
と実践—
『日本デューイ学会紀要』第33号、pp. 61-66.
- 1993年3月 コンウェイ(Jill Kathryn Conway)のジェーン・アダムズ解釈の検討—「女性機関」
ハル・ハウスの創設者アダムズの根拠と問題点—
教育思想研究会編『教育と教育思想』第13集、pp. 165-177.
- 1996年3月 秋田県におけるコア・カリキュラムの成立と変容—増田小プランの検討—
(石井鈴子との共著、分担部分は分離不可能)
秋田大学教育学部研究紀要 教育科学第49集、pp. 58-74.
- 1997年3月 ジェーン・アダムズ研究序説
教育思想研究会編『教育と教育思想』第17集、pp. 83-104.
- 1997年6月 課題研究 デューイ哲学と異文化共生の思想 デューイ哲学とシカゴの「異文化共生」
問題—スモールおよびアダムズの移民観との対比において—
『日本デューイ学会紀要』第38号、pp. 149-160.
- 1999年6月 課題研究 デューイ社会思想の今日的意義 デューイは何故に第一次世界大戦へのア
メリカ合衆国参戦を支持したのか?
『日本デューイ学会紀要』第40号、pp. 163-171.
- 2000年3月 ジェーン・アダムズにおけるセツルメント事業従事の思想的根拠の解明—トルストイ
思想(特に『What to Do?』)の受容に焦点をあてて—
『実践女子大学文学部紀要』第42集、pp. 83-108.
- 2000年12月 教育研究者における「反省的思考」の必要性—佐藤学の「反省的实践家としての教師」
論の検討を通して
鳴門教育大学学校教育実践センター紀要 第15号、pp. 1-10.
- 2002年3月 アルビオン・W・スモールの社会学研究・社会学教育と「社会観察の拠点」としての
セツルメント—「a “laboratory guide”」としての『社会研究入門』から『一般社会学』
への社会学観の展開と創設期シカゴ社会学派の社会(学的)調査—

- 東洋大学文学部紀要 第55集教育学科編XXVII、pp. 203-243.
- 2003年 3 月 “The Conceptual Basis of Jane Addams’ Settlement Work : An Analysis Focusing on Addams’ Response to Tolstoy’s Writings (Especially *What to Do* ?)”
- 東洋大学文学部紀要 第55集教育学科編XXVIII、pp. 107-148.
- 2003年 3 月 “The Philosophy of John Dewey and the Problem of “Ethnic” Chicago : The Development of Experimental Idealism as Compared to the Views of Albion W. Small and Jane Addams on Immigrants”
- 東洋大学文学部紀要 第55集教育学科編XXVIII、pp. 149-172.
- 2005年 2 月 ジェーン・アダムズ思想形成過程の再検討—Victoria Bissell Brown, *The Education of Jane Addams* (2004) を手がかりに—
- 東洋大学文学部紀要 第58集教育学科編XXX、pp. 99-116.
- 2006年 2 月 ジェーン・アダムズ思想形成過程の再検討 (2) —Victoria Bissell Brawn, *The Education of Jane Addams* (2004) を手がかりに—
- 東洋大学文学部紀要 第59集 教育学科編XXXI、pp. 131-161.
- 2008年 2 月 永野芳夫のデューイ研究と澤柳政太郎の成城小学校教育実践との関連性 (上) —「経験哲学」にもとづく「新しい教育の諸事実」の「基礎づけ」に焦点をあてて—
(東洋大学) アジア文化研究所研究年報—2007年—第42号、pp. 1-17 (162-146).
- 2009年 2 月 ジェーン・アダムズの思想形成とハル・ハウスにおけるセツルメント事業の展開—カーライル思想からトルストイ思想への転換を軸にして—
- 東洋大学文学部紀要 第62集 教育学科編XXXIV、pp. 171-218.
- 2009年 2 月 永野芳夫のデューイ研究と澤柳政太郎の成城小学校教育実践との関連性 (下) —「経験哲学」にもとづく「新しい教育の諸事実」の「基礎づけ」に焦点をあてて—
(東洋大学) アジア文化研究所研究年報—2008年—第43号、pp. 33-44 (132-121) .
- 2009年10月 永野芳夫におけるデューイ思想受容再考—篠原助市の場合との対比を念頭において—
『日本デューイ学会紀要』第50号、pp. 137-147.
- 2010年 2 月 中島義一の「自由教育」論と『子ども哲学叢書』(全七巻)の形成と理論構造の解明—篠原助市「批判的教育学」と佐藤熊治郎の教育思想との関連において—
- 東洋大学文学部紀要 第63集 教育学科編XXXV、pp. 91-111.
- 2010年 2 月 篠原助市における教育学理論の形成・展開とデューイ思想受容との関係の解明—永野芳夫の場合との対比を念頭において—
(東洋大学) アジア文化研究所研究年報—2009年—第44号、pp. 28-43 (193-178).
- 2011年10月 篠原助市における「国民教育」論としての教育学理論の形成・展開とデューイ思想の受容・評価との関係の解明—福井師範時代 (1906年 4 月—1912年 9 月) における「新教育」思想受容と「児童の歴史化」の問題化—
『日本デューイ学会紀要』第52号、pp. 1-12.
- 2012年 2 月 中島義一の「自由教育」論および『子ども哲学叢書』(全七編)の形成と理論構造の解明 (その 2) —雑誌『学校教育』に見る広島高師教育科 (1918年 4 月—1920年 3 月) における勉学状況と鯉坂 (小原) 国芳「哲学と新教育」論の影響—
- 東洋大学文学部紀要 第65集 教育学科編XXXVII、pp. 87-101.
- 2013年 2 月 京都帝国大学・同大学大学院在学中の篠原助市における「批判的教育学」確立とデューイ教育思想批判との関係の解明
(東洋大学) アジア文化研究所研究年報—2012年—第47号、pp. 18-39 (215-194).
- 2014年 3 月 青森県における大正自由教育の実態解明に向けた基礎的分析 (1) —雑誌『自由教育』1・2・3号 (1924年) 青森県購読者に占める「三戸郡本誌読者」井口信雄 (1893—1964) の位置づけを中心に—

東洋大学文学部紀要 第67集 教育学科編XXXIX、pp. 71-83.

- 2015年 3 月 篠原助市「批判的教育学」と彼の国体観との関係の解明—「自然の理性化」の、「社会による教育・社会の為の教育」としての展開—
東洋大学文学部紀要 第68集教育学科編XL、pp. 145-154.

(書評・解題、調査報告、図書紹介、その他)

<書評・解題>

- 1985年 3 月 書評 鶴見俊輔『デューイ』（『人類の知的遺産』第60巻）
常磐大学人間科学部紀要『人間科学』第2巻第2号、pp. 103-105.
- 1985年 4 月 編集代表 小島弘道／安井健二／小松郁夫『教育を考えるための資料便覧』高陵社書店
担当部分：「1. 教育・保育とは何か」、pp. 1-18.
- 1986年 4 月 教師養成研究会編『教育方法学』学芸図書
担当部分：「Ⅸ教育方法の基本的問題 Bわが国の教育実践」の「1 生活綴方的教育方法」、「7 平和教育」、「10 交流教育」、pp. 238, 244, 247.
- 1991年10月 教師養成研究会 編集代表 多田俊文『教職課程講座 5 教育の方法と技術』学芸図書
担当部分：「Ⅷ 教育方法の基本問題と教育実践」・「B わが国の教育実践」の「1 生活綴方的教育方法」、「7 平和教育」、「10 交流教育」、pp. 169, 175, 178.
- 2000年 5 月 教師養成研究会 編者代表 多田俊文『教職課程講座 5 教育の方法と技術 改訂版』学芸図書
担当部分：「Ⅷ 教育方法の基本問題と教育実践」・「B わが国の教育実践」の「1 生活綴方的教育方法」、「7 平和教育」、「10 福祉教育」、pp. 192, 198, 201.
- 2007年 3 月 書評 宮本健市郎著『アメリカ進歩主義教育理論の形成過程』
『教育学研究』第74巻第1号、日本教育学会、pp. 106-111.
- 2008年 2 月 教師養成研究会 編集代表 多田俊文『教職課程講座 5 教育の方法と技術 三訂版』学芸図書
担当部分：「Ⅷ 教育方法の基本問題と教育実践」・「B わが国の教育実践」の「1 生活綴方的教育方法」、「7 平和教育」、「10 福祉教育」、pp. 206, 212, 215.
- 2009年 5 月 教師養成研究会 編集代表 多田俊文『教職課程講座 5 教育の方法と技術 四訂版』学芸図書
担当部分：「Ⅷ 教育方法の基本問題と教育実践」・「B わが国の教育実践」の「1 生活綴方的教育方法」、「7 平和教育」、「10 福祉教育」、pp. 214, 220, 224.
- 2010年 3 月 書評 千賀 愛『デューイ教育学と特別な教育的配慮のパラダイム 実験学校と子どもの多様な困難・ニーズへの教育実践』
『教育学研究』第77巻第1号、日本教育学会、pp. 92-95.
- 2011年10月 書評 小柳正司著『デューイ実験学校と教師教育の展開—シカゴ大学時代の書簡の分析—』
教育史学会機関誌編集委員会編『日本の教育史学—教育史学会紀要 第54集—』pp. 240-242.

<調査報告>

- 1984年10月 ジェーン・アダムズのフレーベル解釈—彼女のセツルメント論との関連で—
『近代幼児教育史研究会会報』第21号、pp. 3-5.
- 1987年 3 月 千・茨教協・教育実習調査報告—クロス集計を中心に—

関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会編『ニュース・レター』 第23号、pp. 29-33.

- 1991年 3 月 「アメリカ高等教育における能力観と制度変革とに関する史的研究」
平成元・二年度科学研究費補助金（総合研究A）（課題番号01301033）、研究代表者
立川 明（アメリカ教育史研究会）、（米澤正雄は「研究協力者」として参加）
- 1996年 3 月 「アメリカ多文化社会における国民統合と教育に関する史的研究」
平成7年度科学研究費補助金（総合研究A）（課題番号05301033）、研究代表者 中村
雅子（アメリカ教育史研究会）、（米澤正雄は「研究分担者」として参加）
- 1997年 3 月 『ジェーン・アダムズのセツルメント思想とハル・ハウスにおけるセツルメント事業
の研究—思想形成、子ども・婦人問題、および移民問題への対応—』
平成6・7・8年度文部省科学研究費補助金〔基盤研究（C）（2）〕研究成果報告書（課
題番号06610217）、pp. 1-75.
- 2000年 3 月 会員研究情報 人物研究、思想研究における自伝の相対化の必要性—ジェーン・アダ
ムズ『ハル・ハウスの20年』（1910年）の記述内容の問題点—
『近代幼児教育史研究会会報』第67号、pp. 7-10.
- 2002年 3 月 『ジョン・デューイの教育学構想と実験学校の教育実践に関する研究』
平成10・11・12年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究（C）（2）〕研究成果報
告書（課題番号10610274）、pp. 1-68.
- 2001-2003年度 「多文化国家米国における学校の公共性論議に関する史的研究」平成13-15年度 科学
研究費補助金〔基盤研究（B）（1）〕、研究代表者 大桃敏行、（課題番号13410073）、（米
澤正雄は「研究協力者」として参加）
- 2009-2011年度 「現代アメリカのアカウントビリティ・アセスメント教育行政の総合的研究」
平成21・22・23年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究（B）〕、研究代表者 北
野秋男、（課題番号21330814）、（米澤正雄は「研究協力者」として参加）

<図書紹介等>

- 1993年 9 月 「第4章 余韻の残る教育 対談者 米澤正雄・櫻井 昭」（対談記録）
櫻井 昭『明日に向き合う教育—子どもの思いを支える—』西巻印刷、pp. 154-197.
- 1996年 7 月 新刊紹介 杉森長子著『アメリカの女性平和運動史—1889～1931年』（ドメス出版、
1996年）
『アメリカ学会会報』、No.122, p.5.
- 1999年 5 月 図書紹介 杉浦宏編『日本の戦後教育とデューイ』
『教育哲学研究』第70号、pp. 149-150.
- 1999年12月 mybook 学生に薦める本 吉武輝子『ブルースの女王 淡谷のり子』（文藝春秋社）
実践女子大学図書館『LibraryMate』第23号、p. 3.
- 2014年10月 図書紹介 苦野一徳『勉強するのは何のため？—僕らの「答え」のつくり方』日本評
論社 2013年
『日本デューイ学会紀要』第55号、pp. 199-200.

<その他の業績>

- 2002年 3 月 教育学科卒業生に一言
東洋大学文学部教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第33号』、pp. 52-53.
- 2004年 3 月 教育学概論のレポートから
同教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第35号』、pp. 55-56.
- 2005年 3 月 私の教育実習体験

- 同教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第36号』、pp. 73-76.
- 2006年 3月 私の「デューイ」学習事始め—H先生と『民主主義と教育』読書会挫折の顛末—
同教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第37号』、pp. 95-98.
- 2007年 3月 人生の岐路における選択（その1.小学校教師なりっぱぐれ編）
同教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第38号』、pp. 69-70.
- 2008年 3月 大学の同級生と教え子の年賀状から
同教育学研究室編集『教育学科 研究室報 第39号』、pp. 72-73.
- 2009年 3月 味噌おにぎりの話
同教育学科研究室編集『教育学 研究室報 第40号』、pp. 73-74.
- 2009年 4月 児童・生徒と一緒に学んでみたいテーマはありますか？
『パイディア20号—東洋大学教職課程年報2009—』「巻頭言」、p. 3.
- 2010年 3月 大学の教育学の講義は、小学校におけるような「面白い授業」になりうるか？
上掲教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第41号』、pp. 83-84.
- 2010年 3月 単元作成（習作）のための重層的な学びの必要性
『パイディア21号—東洋大学教職課程年報2010—』「巻頭言」、pp. 3-4.
- 2011年 3月 60歳になったら取り組みたかったこと
上掲教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第42号』、pp. 66-67.
- 2012年 3月 嗚呼、諸橋大漢和・全13巻
同教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第43号』、pp. 87-88.
- 2013年 3月 ルイ・メナンド『メタフィジカル・クラブ』を大学院生と読んで
同教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第44号』、pp. 83-84.
- 2014年 3月 問いの源は自らの足もとにあり
同教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第45号』、pp. 79-80.
- 2015年 3月 『暮しの手帖』と母
同教育学科研究室編集『教育学科 研究室報 第46号』、pp. 74-75.

<東洋大学文学部教育学科の刊行物の分担部分>

- 2008年 3月 テキストの読み方
分担部分：東洋大学文学部教育学科編『大学生として学ぶ—教育学入門—』東洋大学文学部教育学科、「第1章 ノートを取る・テキストを読む」・「第2節 テキストの読み方」、pp. 11-17.なお、同書『大学生として学ぶ（三訂版）—教育学入門—』（2012年3月）までは、同じ題名で、同じ箇所「第1章」・「第2節」に収録される。
- 2008年12月 「第3節 学級経営の手法」・「第4節 学校経営と校務分掌」
分担部分：東洋大学文学部教育学科編『往還型教育実習（東洋大学モデル）ガイド—実践的指導力のある小学校教員を育成するために—』、「第5章 教師の仕事とは」の「第3節 学級経営の手法」・同章「第4節 学校経営と校務分掌」、pp. 60-66.
- 2012年 3月 パラグラフ・リーディング
分担部分：東洋大学文学部教育学科編『大学生として学ぶ（四訂版）—教育学入門—』、「第1章 ノートを取る・テキストを読む」・「第2節 テキストの読み方」の「4. パラグラフ・リーディング」、pp. 13-20.
- 2014年 3月 パラグラフ・リーディング
分担部分：東洋大学文学部教育学科編『大学生として学ぶ—教育学入門（改訂新版）—』、「第2章 学びの技術」・「第3節 文献や資料の読み方」の「2 パラグラフ・リーディング」、pp. 21-25.

<学会発表>

- 1977年10月15日 デューイの思想形成に及ぼせるジェーン・アダムズの影響
日本デューイ学会第21回大会（於：岡山大学教育学部）
- 1978年 8 月29日 欧米における教師教育の問題点（Ⅰ）—アメリカ教員養成課程における「理論」と「実践」の関連—
（小川博久、○小笠原喜康、○米沢正雄、○児島雅典、森茂岳雄、土屋文明、大谷洋子、による共同研究発表（○は発表者）、米澤正雄は「Ⅰ．教員養成課程における教育実習の意義—デューイの教育実習論を手がかりにして—」を分担発表）
日本教育学会第37回大会 共同・課題研究「教員養成の理論と方法」（於、東京学芸大学）
- 1978年10月 7 日 欧米における教師教育の問題点（Ⅱ）—教師に要求される新しい能力—
（上記 7 名による共同研究発表、共同研究者として参加）
日本教育方法学会第14回大会（於、成城大学）
- 1978年10月15日 デューイ思想形成にはたしたジェーン・アダムズの意義（2）
日本デューイ学会 第22回研究大会（於、早稲田大学第九号館）
- 1980年 9 月 7 日 デューイ思想形成にはたしたジェーン・アダムズの意義（3）
日本デューイ学会第24回研究大会（於、仏教大学）
- 1984年 7 月 7 日 ジェーン・アダムズのセツルメント論
近代幼児教育史研究会 第17回研究発表会（於、法政大学）
- 1987年 9 月 6 日 ジェーン・アダムズのセツルメント論
日本デューイ学会 第31回研究大会（於、玉川大学）
- 1988年 9 月13日 ジェーン・アダムズのセツルメント論（2）
日本デューイ学会 第32回研究大会（於、福岡工業大学）
- 1989年 9 月13日 ジェーン・アダムズのセツルメント論（3）—「ソーシャル・セツルメントの機能」（1899年）におけるセツルメントの定義—
日本デューイ学会 第33回研究大会（於、東洋大学白山校舎 1 号館）
- 1990年 9 月13日 ジェーン・アダムズのセツルメント論（4）
日本デューイ学会 第34回研究大会（於、甲南女子大学）
- 1991年 9 月19日 ジェーン・アダムズのセツルメント論（5）
日本デューイ学会 第34回研究大会（於、亜細亜大学総合研究館）
- 1995年 9 月30日 秋田県におけるコア・カリキュラムの成立と展開—増田小プランの検討—
（共同発表、発表者は石井鈴子、米澤正雄は共同研究者として参加）
日本教育方法学会 第31回大会（於、筑波大学）
- 1995年10月 9 日 ジェーン・アダムズにとってセツルメント事業とは何か—「社会学の実験室」としてのセツルメント論批判を手がかりに—
教育史学会 第39回大会（於、新潟大学教育学部）
- 1996年 2 月10日 教育についての反省的思考の可能性—秋田県の事例を通して—
秋田県教育学会第42回大会（於、秋田市泰山荘）
- 1996年10月13日 課題研究 デューイ哲学と異文化共生の思想 シカゴ社会学派およびジェーン・アダムズの移民観との対比において
日本デューイ学会 第40回研究大会（於、大東文化大学）
- 1998年 9 月20日 課題研究 デューイ社会思想の今日的意義 第一次世界大戦とジョン・デューイ
日本デューイ学会 第42回研究大会（和泉短期大学）
- 1999年10月 3 日 アルビオン・W・スモールの社会学研究・社会学教育の検討
教育史学会 第43回大会（於、北海道大学学術交流館）

- 2006年9月17日 ジェーン・アダムズの思想形成とセツルメント事業の解明—トルストイ思想の受容に焦点をあてて—
教育史学会 第50回（於、大東文化大学）
- 2007年10月21日 課題研究 デューイと奈良の教育—永野芳夫のデューイ研究と澤柳政太郎の成城小学校教育実践との関連性の解明を通して—
日本デューイ学会 第51回研究大会（於、奈良女子大学文学部）
- 2008年10月13日 永野芳夫におけるデューイ思想受容再考—篠原助市の場合との対比を念頭において—
日本デューイ学会 第52回研究大会（於、筑波大学 東京キャンパス）
- 2010年9月19日 篠原助市における「国民教育」論としての教育学理論の形成・展開の解明—永野芳夫におけるデューイ思想受容との対比—
日本デューイ学会 第54回研究大会（於、大正大学）
- 2011年1月9日 小柳正司『デューイ実験学校と教師教育の展開—シカゴ大学時代の書簡の分析—』（学術出版会、2010年）の検討
アメリカ教育史研究会・全体集会（於、SUNPLAZA SEASONS：愛知県名古屋市中東区藤里町1601番地）
- 2015年10月4日 篠原助市における「批判的教育学」のゆくえ—『批判的教育学の問題』と『民主主義と教育の精神』とにおけるデューイ思想理解を手がかりに—
日本デューイ学会 第59回研究大会（於、明星大学）

＜東洋大学における学内業務＞

I. 文学部教育学科主任・教育学科長

- ①文学部教育学科2部主任：2004年4月1日—2005年3月31日
- ②文学部教育学科1部主任：2005年4月1日—2006年3月31日
- ③文学部1部教育学科人間発達専攻主任および同学部2部教育学科主任：2012年4月1日—2013年3月31日
- ④文学部教育学科長および同学部1部初等教育専攻長：2013年4月1日—2014年3月31日

II. 大学院文学研究科委員会 委員（教育学専攻）

東洋大学大学院文学研究科委員会委員（教育学専攻）を務める：2004年4月1日から現在に至る

III. 全学の委員長

東洋大学教職課程運営委員会委員長を務める：2008年4月1日—2010年3月31日

＜その他、東洋大学における特記すべき教育活動＞

I. 学部において指導した受賞卒業論文および優秀卒業論文

【勸学奨励賞 受賞論文の指導】

- ①2006年度 優秀論文・勸学奨励賞受賞、町田浩子「西村伊作の自由教育思想と文化学院における教育実践の解明—生活即芸術としての教育論の形成とその展開—」
- ②2013年度 優秀論文・勸学奨励賞受賞、稲田浩一「青年期における無気力症の考察」

【校友会学生研究奨励賞 受賞論文の指導】

- ③2005年度 優秀論文・校友会学生研究奨励賞受賞、山崎智代「魂の教育—林竹二の思想—」
- ④2007年度 優秀論文・校友会学生研究奨励賞受賞、國廣零子「子どもに関わる音楽の在り方—わらべうたに着目して—」
- ⑤2009年度 優秀論文・校友会学生研究奨励賞受賞、菅野智恵子「『吾が天職は社会改良者なり。女子教育者なり。』—成瀬仁蔵の女子教育論と女子高等教育実践—」
- ⑥2011年度 優秀論文・校友会学生研究奨励賞受賞、藤井琴美「望ましい学級経営とは—「学級経営」の定義・要因分析・解決策の見解を通して—」

- ⑦2013年度 優秀論文・校友会学生研究奨励賞受賞、上田亜希子「「死への準備教育」を中等教育に導入する試みの検討—アルフォンス・デーケンの思想と実践を手がかりにして—」
- ⑧2014年度 優秀論文・校友会学生研究奨励賞受賞、佐々木由理「「中堅」以上の看護師の継続的就労と職場環境改善に必要なもの—ベナール看護論の検討を通して—」

【優秀論文（S評価）の指導】

- ①2001年度 優秀論文、伊藤美穂「「個性教育」についての検討—近年の「個性教育」政策並びに「個性」および「個性」概念についての検討を通して—」
- ②2005年度優秀論文、加藤友花里「「児童虐待」を防ぐために—「児童虐待防止法」の検討を通して—」
- ③2006年度 優秀論文、工藤 愛「シュタイナー教育思想の検討—人智学的人間観・発達観と教育方法との関連性に焦点をあてて—」
- ④2008年度 優秀論文、後藤美由季「「伝達か対話か」—パウロ・フレイエが提唱した「課題提起教育」への考察—」
- ⑤2009年度 優秀論文、太田 幸「道德教育はどうあるべきか—「心のノート」の導入を受けて—」
- ⑥2011年度 優秀論文、石田太郎「中高生における部活動の教育的意義」
- ⑦2012年度 優秀論文、黒田菜々美「母親の役割の歴史的変化について」
- ⑧2013年度 優秀論文、郡司陽平「森田洋司のいじめ四層構造論とその対策の検討—埼玉県K中学校の「いじめの書き出し」実践への考察を通して—」
- ⑨2013年度 優秀論文、澁谷悠貴「小学校英語教育をいかに改善すべきなのか—日本と韓国との比較を通して—」
- ⑩2014年度 優秀論文、立野勇樹「高校社会公民科「現代社会」でいかにして国際理解教育を行うか—大津和子のカリキュラム構想及び実践「世界のマイノリティ」の分析を通して—」

II. 大学院において主査として指導した受賞修士論文

【主査として指導した、校友会学生研究奨励賞 受賞修士論文】

- ①2006年度 大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修士論文・校友会学生研究奨励賞受賞、太田勝子「看護師の現任教育はいかにあるべきか—聖路加国際病院におけるクリニカル・ラダーおよびプリセプター制度の導入・実施の検討を通して—」

III. その他、大学院において主査として指導した修士論文

- ①2003年度 後藤啓子「近代日本における「看護」概念の確立に及ぼしたナイチンゲールの影響—戦前の看護婦学校カリキュラム及び教科書にみられる「看病」、「看護」概念の検討を通して—」
- ②2003年度 齋藤寿子「野口雨情における童謡教育の成立—「童心」の表現としての詩と本居長世による作曲との結合—」
- ③2004年度 金子潔子「看護師養成カリキュラムにおける「臨地実習」の意義と「看護倫理」導入の可能性—看護基礎教育における「臨地実習」の位置づけと患者理解を深める「臨地実習」指導に焦点を当てて—」
- ④2004年度 島田千恵子「基礎看護学における「対象者の理解」を深めるための授業方法の構想と実践—E.ウィーデンバックによる『援助へのニーズ<need for help>』の概念とM.メイヤロフの『ケア』の概念に焦点をあてて—」
- ⑤2008年度 池田良輔「戦前期の太田典礼の性教育論における結婚観についての一考察—彼の社会観との関係を中心に—」
- ⑥2009年度 町田浩子「西村伊作による各種学校としての文化学院の意義—未来の文化的生活を営む素養—」
- ⑦2012年度 国谷直己「戦前における茨城県教育界の「日本主義」への傾斜と今宮千勝（1894-1974）の教育思想の関連性—『生命伸展の教育』から『純粋日本教育原理』への推移に焦点をあてて—」

2015年文学部教育学科研究活動報告

(2015年1月～12月)

板橋雅則

<研究活動>

【実践報告】

1. 板橋雅則「道徳的実践力の育成をめざした道徳授業に関する一考察—生活科との関連に着目して—」筑波大学道徳教育研究会『筑波大学道徳教育研究』第16号、2015年3月、73-82頁。

【学会発表】

1. 板橋雅則「道徳の時間の実践史的考察」日本道徳教育学会第86回大会（岡山大学）、2015年11月22日。

<教育活動>

【学内】

(学部) 道徳教育論、特別活動の理論と方法、教職実践演習

【学外】

大正大学「道徳教育研究」

国学院大学栃木短期大学「教師論」

<学会活動>

関東教育学会（会員）

教育史学会（会員）

日本教育方法学会（会員）

日本道徳教育学会（会員）

日本特別活動学会（会員）

伊藤 摂子

<研究活動>

【論文】

1. 「小学校英語活動の成果と課題」『京都産業大学教職研究紀要』第10号 pp.49-62（共著）植松茂男・佐藤玲子・伊藤摂子 2015年3月

【学会発表】

1. 「小学校外国語活動における英語使用量について—教師の英語使用量に対しての児童への意識調査—」第15回小学校英語教育学会広島大会（広島大学）2015年7月

【研究助成】

日本学術振興会科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）（2015年度-2017年度）研究分担者「小学校英

語教育のための大学英語教材開発」（研究代表者：明星大学 高橋和子教授）

【その他】

1. 「小学校外国語活動を英語教育始まりの第一歩にするためには」日本学術会議 文化の邂逅と言語分科会 2015年11月

<教育活動>

【学内】

(学部) 小学英語教育法、小学英語特講、教育学入門ゼミナール（一部、二部）、教職総合ゼミナール（一部、二部）

【学外】

<大学・学部管理運営活動>

1. 外国語活動指導法研究1・2（明星大学）
2. 教員免許講習（小学校英語）2015年8月、12月（明星大学）
3. 外国語活動指導法研究1・2通信スクーリング（明星大学）

<学会活動>

1. 小学校英語教育学会（JES）
2. 児童英語教育学会（JASTEC）
3. 関東甲信越英語教育学会（KATE）、全国英語教育学会（JASELE）
4. 大学英語教育学会（JACET）
5. 全国語学教育学会（JALT）

<社会的活動等>

1. 文京区外国人おもてなし英会話講座（8回、東洋大学）2015年10月～12月
2. 学校評議委員 東久留米市立南町小学校 2015年10月、2016年2月
3. 校内研究授業 講師 東久留米市立南町小学校 2015年4月24日
4. 校内研究授業 講師 八王子市立松本小学校 2015年11月19日、26日
5. 校内研究授業 講師 東久留米市立第三小学校 2016年2月4日

榎本 淳子

<研究活動>

【著書】

1. 榎本淳子(2015). 心理の特徴 丹羽公一郎(編著) 成人先天性心疾患 メジカルビュー社, pp. 292-293.

【論文】

1. Enomoto, J., & Nakazawa, M. (2015). Negative effect of aging on psychosocial functioning of adults with congenital heart disease. *Circulation Journal*, 79, 185-192.
2. Apers, S., et al. (2015). Assessment of Patterns of Patient-Reported Outcomes in Adults with Congenital Heart disease — International Study (APPROACH-IS) : Rationale, design, and methods. *International Journal of Cardiology*, 179, 334-342
3. 榎本淳子 (2014). 成人期に達した先天性心疾患患者の不安・うつと社会的問題解決 東洋大学文学部紀要教育学科編 68、23-28

【学会発表：シンポジウム】

1. 「先天性心疾患患者の心理社会的課題と年齢差」 第17回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 教育セッション (招待発表:東京、2015年1月)
2. 「自分の将来は自分のものであること：コントロール感をもった生活(ゴール)を目指して」 日本小児看護学会第25回学術集会 シンポジウム (招待発表：幕張、2015年7月)
3. 「成人期に達した先天性心疾患患者の心理社会的特徴と必要とされる支援」 日本心理臨床学会第34回大会 (2013年度研究助成対象研究発表：神戸、2015年9月)

【研究助成】

日本学術振興会科学研究費基盤研究C(平成26-28年度)「先天性心疾患患者の心理社会的発達課題と支援ツールの開発」(研究代表 榎本淳子)

【その他】

「成人先天性心疾患の精神心理的問題と対応」 第12回 成人先天性心疾患セミナー (講師：東京、2015年6月)

<教育活動>

【学内授業担当(学部)】

教育心理学、生徒指導論、生徒指導研究、教育実習ⅠⅡ、教育学ゼミナールⅠⅡ、教職総合ゼミナール

【学内授業担当(大学院)】

教育相談学特殊講義

<学会活動>

日本教育心理学会(会員)

日本発達心理学会(会員)

日本心理学会(会員)

日本心理臨床学会(会員)

日本小児循環器学会(会員)

International Society for Adult Congenital Heart Disease (member)

American psychological association (member)

<社会的活動>

千葉県循環器病センター 臨床心理士

大 貫 眞 弘

<研究活動>

【論文】

1. 「漢字テストの採点方針と採点者の信念に関する考察」『東海大学課程資格教育センター論集』第13号、2015年3月、77-84頁。

【その他】

1. 「授業者の哲学が見える授業」『言語技術教育』第25号、日本言語技術教育学会、2015年7月、90-91頁

<教育活動>

【学内】

(学部)「国語科指導法ⅠⅡ」「初等教科教育法(国語)」「初等科国語」「教育学ゼミナールⅠⅡ」(以上1部)「教職実践演習」(2部)
(大学院)「国語科教育研究演習」

【学外】

学部：東海大学教職課程「国語科教育法」「国語科教材論」「国語科教育法特論」講師

<大学・学部管理運営活動>

2020東京オリンピック・パラリンピック連携事業委員

<学会活動>

全国大学国語教育学会、日本国語教育学会、日本言語技術教育学会、国文学 言語と文芸の会、日本教材学会、早稲田大学国語教育学会、他

緒 方 登士雄

<研究活動>

【論文】

「重度・重複障害児の「自立活動」における動作学習の意義—自立活動の授業をデザインするため

の視点(案)一」。東洋大学文学部紀要、第68集、2015年3月。

【講演】

1. 東洋大学社会貢献事業講師「障がい児・者への発達支援—豊かなコミュニケーションを育むために」会場：葛飾区立保田しおさい学校、埼玉所沢おおぞら特別支援学校、長野県立上田養護学校
2. 人間科学総合研究所主催（発達臨床相談室活動）「児童クラブのための発達障がい支援者研修会」講師（6月、12月）会場 福島県南相馬市市役所

<教育活動>

【学内】

(学部) 肢体不自由児・者の教育臨床、肢体不自由児の指導法、特別支援学校教育実習、教育学演習

(大学院) 発達障害児臨床心理研究特殊講義、教育学特殊研究、教育学研究指導

【学外】

青山学院大学大学院「障害者(児)心理学演習」

<大学・学部管理運営活動>

1. 学生相談室専門員
2. 障がい学生支援室(バリアフリー推進室)スーパーヴァイザー

<学会活動>

1. 日本発達障害学会(会員)、日本心理臨床学会(社員(評議員))、日本特殊教育学会(会員)、日本リハビリテーション心理学会(常任理事)、日本臨床動作学会(常任理事・事務局長)、日本教育心理学会(会員)、日本心理学会(会員)
2. 日本心理臨床学会 研究発表の座長

<社会的活動等>

1. 東洋大学人間科学総合研究所発達臨床相談室相談員、千代田区特別支援教育発達支援アドバイザー、九州大学大学院人間環境学府附属「発達臨床心理センター」研究員、日本臨床心理士会会員
2. 長野県心理リハビリテーション研究会主催事業「長野県心理リハビリテーションキャンプ」キャンプ長・スーパーヴァイザーとして参加者(障害児・者、教育・福祉関係者、保護者)への指導・助言
3. 国家公務員共済組合連合会三宿病院主催研修

会 講師

4. 福島県南相馬市学童クラブへの訪問指導(指導員への助言)

桂 直 美

<研究活動>

【論文】

1. 桂 直美「スズキメソッド音楽教育論の原点を探る：日米の教師の語りから見るスズキコミュニティのエートス」日本音楽教育学会『音楽教育学』、45巻第1号、2015年6月、13-24頁
2. 桂 直美・猶原和子「『美的教育ワークショップ』による芸術経験の協同創造」『東洋大学文学部 紀要』第68集教育学科編XL、2015年3月、29-38頁

【学会発表】

1. Naomi Katsura, The Living Educational Philosophy of the Suzuki Method: The Ethos of the Suzuki Teachers' Community, The 14th Hawaii International Conference on Education 2015.1.7

【研究助成】

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))(2015年度-2017年度)「新任期における教師の成長のナラティブスタディー生きた経験としてのカリキュラム」(研究代表者)

<教育活動>

【学内担当授業科目等(学部)】

初等科音楽、初等教科教育法(音楽)、教育課程論、教育課程総論、教育学入門ゼミナール、教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒論ゼミナール

【学内担当授業科目等(大学院)】

授業分析論特殊講義、教育学研究指導XI、音楽科教育研究演習

【学外担当授業科目等(学部)】

初等音楽(筑波大学)

<学会活動>

【所属する学会と役職等】

日本教育方法学会 会員

日本教育学会 会員

日本音楽教育学会 会員

日本デュイ学会 会員、

日本カリキュラム学会 会員

日本教材学会 会員、紀要編集委員会委員

日本学校音楽教育実践学会 会員

日本民俗音楽学会 会員

日本質的心理学会 会員

American Educational Research Association
会員

北澤 俊之

<研究活動>

【論文】

「造形教育におけるユーモアの意義と可能性」日本美術教育連合『日本美術教育研究論集』第48号、pp.13-22、2015.3

「多様性の中の学校—オランダ・イギリスの小学校の取り組みから—」『東洋大学文学部紀要』教育学科編 第68集、pp.39-49、2015.3

【研究発表】

「身近な世界との関係を編み直すための造形教育プログラムの研究—子どものユーモアを切り口として—」、第49回日本美術教育研究発表会、東京家政大学、2015.10.18

<教育活動>

【学内】

(学部) 初等図画工作 (2コース・0.5コマ)、初等教科教育法 (図画工作) (2コース・0.5コマ)、授業論 (0.5コマ)、教育実習 I II (一部・0.5コマ)、教育学ゼミナール I II (一部・1コマ)、教職総合ゼミナール (二部・0.5コマ)、教職実践演習 (小学校・0.5コマ)、初等教育実践研究B (1コマ)

(大学院) 図画工作・美術教育研究演習 (0.5コマ)
(通信) 教育実習 I II (0.5コマ)

【学外】

初等図画工作教育法 (0.5コマ)・初等教科専門図画工作 (0.5コマ) (早稲田大学教育学部)

<学会活動>

日本美術教育連合(監事)、造形教育センター(アーカイブ委員)、全国大学造形美術教育教員養成協議会(委員)、美術科教育学会(会員)、大学美術科教育学会(会員)

<社会的活動等>

1. 開隆堂 図画工作教科書編著者
2. 守谷市美術教育研究部夏季実技講習会 講師 (守屋市立御所ヶ丘小学校)、2015.8.4
3. 造形・美術教育力養成講座 講師 (公益社団法人日本美術教育連合主催 武蔵野美術大学

新宿サテライト 2015.8.25

4. 全国児童画コンクール (毎日新聞社主催) 審査員2015.10.17
5. 世界こども図画コンテスト(家の光協会主催) 審査員2015.10.31
6. 平成27年度文京区立柳町小学校学校関係者評価委員会委員長

栗原 久

<研究活動>

【論文】

1. 栗原久「現代社会における紛争解決スキルの意義と必要性」公益財団法人たばこ総合研究センター『TASC MONTHLY No.475』2015年7月、6-12頁。

【学会発表】

1. Eiji YAMANE, Takenori INOSE, Hisashi KURIHARA, "Teaching of National Budget and Taxes as a Core Content of Civics", 11th International Conference of IACSEE (Georg-August-Universität Göttingen), July 3rd. 2015.
2. 猪瀬武則・山根栄次・栗原久・高橋桂子・宮原悟・服部一秀「経済教育は倫理とどのように関わるか—大学生の経済倫理認識調査から分かったこと—」日本社会科教育学会第65回全国研究大会 (宮城大会)、2015年11月8日。
3. 栗原久「『経済についての見方や考え方』に関する同意・不同意—予備的調査の結果から—」日本社会科教育学会第65回全国研究大会 (宮城大会)、2015年11月8日。

【研究助成】

1. 研究分担者・栗原久「幸福・効率・公正から再編成する経済教育プログラムの開発」(研究代表者・猪瀬武則日本体育大学教授、平成26~28年度、基盤研究(B))
2. 研究分担者・栗原久「現代社会の課題を考察する見方や考え方を身に付けさせる公民教育カリキュラムの再構築」(研究代表者・唐木清志筑波大学准教授、平成26~28年度、基盤研究(B))

【その他】

1. 栗原久「経済学習=抽象度の高い語句の見える化ヒント」『社会科教育No.669』明治図書、2015年1月。

2. 栗原久「市民性を育てる『金融経済教育』の実践」『月刊教職研修』2015年2月。
3. 栗原久「パーソナル・ファイナンスを中心に経済単元を組む」『社会科教育No.672』明治図書、2015年4月。
4. 栗原久「社会科の教師として、経済教育の研究者として」『社会科教育No.672』明治図書、2015年4月。
5. 栗原久「『本時のねらい』に直結する主発問の案出を」『社会科教育No.675』明治図書、2015年7月。
6. 栗原久他「日経STOCKリーグ『レポートフォーマットガイドブック』」日本経済新聞社 (<http://manabow.com/sl/concept/material.html>)、2015年7月。
7. 栗原久「学習問題設定のポイントはココ」『社会科教育No.677』明治図書、2015年9月。

【講演会】

1. 栗原久「中学教科書で教える経済的な見方や考え方」日本取引所グループ・経済教育ネットワーク「先生のための『夏休み経済教室』—授業に役立つ経済学—」（名古屋・大阪・東京）、2015年8月。
2. 栗原久「経済教育の理論と実際」長野県総合教育センター「教科等教育研修」2015年10月15日。

<教育活動>

【学内】

(学部) 教育学入門ゼミナール、教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ、教育学卒論ゼミナール、社会・公民指導法Ⅰ・Ⅱ、教育実習Ⅰ・Ⅱ

(大学院) 学習指導論特殊講義・教育学研究指導Ⅴ

(通信) 教職実践演習

【学外】

埼玉大学教育学部「社会科指導法B」「社会科指導法D」、茨城大学人文学部「公民科指導法」、筑波大学「公民科(政治経済)指導法」

<大学・学部管理運営活動>

1. 教職課程運営委員会介護等体験小委員長

<学会活動>

1. 日本社会科教育学会幹事、国際交流委員会委員
2. 日本公民教育学会副会長、学会誌編集長

<社会的活動等>

1. 日本証券業協会「金融・証券教育支援委員会」委員。

齋 藤 里 美

<研究活動>

【論文】

1. 「OECD国際調査にみる移民の子どもの教育成果とその分析—Thematic Review on Migrant Education の意義と課題—」日本比較教育学会『比較教育学研究』51号、2015年8月25日、pp. 50-60。
2. 「TALIS2013年調査にみる日本の教師と教師教育研究の課題—学習の私事化・市場化と揺らぐ教師の専門性—」日本教師教育学会『日本教師教育学会年報』第24号、2015年9月19日、pp. 20-29。
3. 「第9章 新しい教育課程の動向 小学校「外国語活動」」私立大学通信教育協会『新しい教育事情』、2015年12月、pp.197-206。
4. 「OECD国際教員指導環境調査からみる教師教育研究の課題」『東洋大学 文学部 紀要』第68集教育学科編XL、2015年3月8日、pp. 51-60。

【研究助成】

1. 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)「EUにおける移民第二世代の学校適応に関する人類学的研究」(研究代表者: 山本須美子)。
2. 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)「日・独・英・仏における移民の学業達成に関する研究」(研究代表者: 園山大祐)。

【報告書】

1. 現代社会総合研究所『武雄市「ICTを活用した教育」2014年度第二次検証報告書』(松原聡、澁澤健太郎、藤井大輔、小河智佳子と共著)、2015年11月。

【書評】

松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター(編著)『ディープ・アクティブラーニング』(『教育目標・評価学会 紀要』第25号、2015年11月30日、pp. 73-76)

【学会発表】

1. 「移民第二世代の学校適応—OECD移民教育調査にみるその多様性」日本移民政策学会2015年度冬季大会シンポジ

ウム、2015年12月12日、中京大学。

【講演等】

1. 綾瀬市教育委員会主催講演会「学ぶ意欲とスキルを育てる」(会場：綾瀬市役所)、2015年7月25日(土)。
2. 清瀬白山会主催 東洋大学第10回文化講演会「世界で進む21世紀型学習—ICT活用と変わる学校の役割」(会場：清瀬市「アミュー」7階大会議室)、2015年12月5日。
3. 栃木県西部地区保育研究会主催講演会「子どもの表現力を伸ばすには」(会場：藤原総合文化会館)、2015年12月19日。

<教育活動>

【学内】

(学部) 学校教育社会学(1部、2部)、比較社会論(1部)、教育学ゼミナールⅠおよびⅡ(1部、2部)、教育学卒論ゼミナール、全学総合科目ⅠB

(大学院) 学校教育研究特殊講義、教育学研究指導Ⅳ(以上博士前期課程)、教育学特殊研究Ⅴ、教育学研究指導(博士後期課程)

<大学・学部管理運営活動>

1. 大学院文学研究科教育学専攻長(2015年4月～)
2. 東洋大学アジア文化研究所運営委員、研究年報編集委員

<学会活動>

1. 教育目標・評価学会理事および教育目標・評価学会紀要編集委員
2. 日本教育学会 会員
3. 日本教育社会学会 会員
4. 日本比較教育学会 会員
5. 日本教師教育学会 会員

<社会的活動等>

1. 華中科技大学外国語学院 客員教授
2. 特定非営利活動法人 リビングバリュー推進協会 副理事長

篠 崎 信 之

<研究活動>

【翻訳】

1. イアン・スチュアート著、日本交流分析学会(訳) エリック・バーンの交流分析—フロイト、ユング、アドラーを超える心理学—実業之日本社

【その他】

1. 日本交流分析協会ニューズレター、第98号ワークショップ3(「エリック・バーンの足跡をたどる」～エリック・バーン・アーカイブ(EBA)～)

<教育活動>

【学内】

(学部) 教育相談の理論と方法(Ⅰ・Ⅱ部)、教育相談(Ⅰ・Ⅱ部)、教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ(Ⅰ・Ⅱ部)、教育学卒論ゼミナール(Ⅰ・Ⅱ部)

(大学院) カウンセリング実習、臨床教育心理治療法特殊講義

(通信) 教育相談

<大学・学部管理運営活動>

1. 教育学科初等教育専攻長
2. 東洋大学人間科学総合研究所紀要編集委員会委員

<学会活動>

1. The International Transactional Analysis Association (Regular Member, Certified Transactional Analyst)
2. 日本交流分析学会(評議員)
3. 日本TA協会(理事)
4. 日本心理学会(会員)
5. 日本パーソナリティ心理学会(会員)
6. 日本健康心理学会(会員)
7. 日本感情心理学会(会員)
8. 日本キャリア教育学会(会員)
9. 第28回日本TA協会大会実行委員

<社会的活動等>

1. ひらかわクリニック非常勤臨床心理士

清 水 直 治

<研究活動>

【著書】

発達が気になる子どものためのポータブルプログラム入門—0歳から家庭でできる発達支援(編著) 合同出版

2015年6月

行動障害の理解と適切行動支援—英国における行動問題への対処アプローチ(監訳) ジアース教育新社

2015年7月

【論文】

発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題 (10) —ネパールにおける早期発達支援システム構築のためのポータープログラム適用とCBR活動の支援— 東洋大学文学部紀要第68集教育学科編XL, 61-70.

2015年2月
障害児 (者) の生涯発達支援システムの設計と実践 (11) —特別支援教育におけるICT活用の現状と課題について— 東洋大学人間科学総合研究所紀要, 18号, 34-38. (共同研究)

2015年8月

【研究発表】

ネパールにおけるポータープログラムの普及とCBR活動の支援—バグルングでのワークショップセミナーの開催と早期対応の現状. 日本特殊教育学会第53回大会論文集P3-9 (東北大会) (共同研究)

2015年9月19日
『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』の改訂と臨床的妥当性に関する検討. 日本特殊教育学会第53回大会論文集P24-10 (東北大会) (共同研究)

2015年9月21日
『親と教師のための学齢期の子どもの行動支援プログラム家庭・学校・地域における豊かな生活をめざして—』の臨床適用と有効性に関する検討. 日本特殊教育学会第53回大会論文集P24-11 (東北大会) (共同研究)

2015年9月21日

【講演・助言】

発達が気になる子どもの子育てとポータープログラム—子育てに活かすABAのはなし—家族のための発達が気になる子どもたちのセミナー (神奈川・鎌倉市福祉センター) 講師

2015年1月11日
第58回ポータープログラム研修セミナー (初級) (大阪・和泉シティプラザ) 講師

2015年1月23日～25日
ポータープログラム一日セミナー (石川・加賀市) 講師

2015年2月21日
第31回ポータープログラム研修セミナー (中級) (愛知・ウィंक愛知) 講師

2015年3月6日～8日
ポータープログラム・ワークショップ (バグル

ング・ネパール) 講師

2015年3月10日～12日
第59回ポータープログラム研修セミナー (初級) (東京・東洋大学白山校舎) 講師

2015年3月13日～15日
グループ指導カリキュラム一日セミナー (大阪・泉南市子どもセンター) 講師

2015年3月27日
応用行動分析の基本—「問題行動」の理解と対処 (日本精神遅滞研究会春季講座) 講師

2015年3月28日
第32回ポータープログラム認定相談員事例研究会 (東京・東洋大学白山校舎) 講師・助言者

2015年4月25日～26日
インクルージョン保育について (神奈川・川崎市中央療育センター) 講師

2015年6月20日
ベトナム・ドンナイ省・ラムドン省におけるインクルージョン教育キーティーチャー養成研修セミナー (ダラット・ベトナム) 講師

2015年6月29日～7月3日・7月6日～10日
第60回ポータープログラム研修セミナー (初級) (東京・東洋大学白山舎) 講師

2015年7月18日～20日
ポータープログラム東京研修セミナー「ポータープログラムの応用」平成27年度人間科学総合研究所特別研究「発達臨床相談における相談員の研修と相談支援活動」(東京・東洋大学白山舎) 講師

2015年8月9日
ポータープログラム研修会 (応用コース) (佐賀・佐賀県立療育センター) 講師

2015年8月18日～19日
第33回認定相談員事例研究会 (大阪・堺市総合福祉会館) 講師・助言者

2015年9月12日～13日
「アジアのポーター」第22回アジア知的障害会議プレカンファレンス・ワークショップ (コロンボ・スリランカ) 講師

2015年10月3日
「障がいのある子どもの“問題行動”の理解と対処」平成27年度東洋大学全国講師派遣事業 (埼玉・さいたまファミリーサポートセンター) 講師

2015年10月13日
ポータープログラム大阪研修セミナー「ポ-

テージプログラムの応用」平成27年度人間科学総合研究所特別研究「発達臨床相談における相談員の研修と相談支援活動」(大阪・アネックスパル法円坂) 講師

2015年10月18日

ポーターズ一日セミナー 盛岡支部・ポーターズ療育教室「ぼっけ」(岩手・アイーナ) 講師

2015年11月8日

グループ指導カリキュラム研修セミナー (東洋大学白山校舎) 講師

2015年11月28・29日

ポーターズプログラム富山研修セミナー「ポーターズプログラムの応用」平成27年度人間科学総合研究所特別研究「発達臨床相談における相談員の研修と相談支援活動」(富山・富山市恵光学園) 講師

2015年12月20日

【学会活動】

日本行動分析学会 (代議員)、日本発達障害学会、日本共生科学会 (常任理事)、日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本行動療法学会、日本行動科学会

【学内】

体育協議会委員

東洋大学人間科学総合研究所研究員、発達臨床相談室室長

<教育活動>

【学内】

(学部) 知的障害児・者の心理と臨床 (Ⅰ部・Ⅱ部)、カウンセリングの理論と実践 (Ⅰ部・Ⅱ部)、教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ (Ⅰ部・Ⅱ部)、発達障害児の心理 (Ⅰ部) (7回担当)

(大学院) 臨床教育心理学研究演習〔前〕、教育学研究指導〔前〕、教育学特殊研究〔後〕、教育学研究指導〔後〕

【学外】

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局秩父学園付属保護指導職員養成所 (「心理学一般」非常勤講師: 集中講義)

<社会的活動>

認定NPO法人日本ポーターズ協会会長

<海外出張>

ポーターズプログラム・ワークショップセミナー (バグルング・ネパール)

2015年3月9日~12日

ベトナム・ドンナイ省・ラムドン省におけるインクルージョン教育キーティーチャー養成研修セミナー (ホーチミン・ベトナム)

2014年6月29日~7月12日

下 田 好 行

<研究活動>

【論文】

1. 下田好行「宮沢賢治の教育実践の特質—賢治の人間観・世界観を探って—」『関東教育学会紀要』第42号、関東教育学会、2015年、pp.1-12、査読有

【その他】

1. 下田好行「宮沢賢治の教師性—存在の真実の露呈と教育」『学校図書館1』No.771、全国図書館学校協議会、pp.50-51
2. 下田好行「自己の中に光を見出す教育—芦田恵之助の「自己を読む」をめぐる—」『学校図書館2』No.772、全国学校図書館協議会、pp.56-57。
3. 下田好行「人間は何のために生きているのか—R.シュタイナーの教育理論から—」『学校図書館3』No.773、全国学校図書館協議会、pp.46-47。
4. 下田好行「感動をどのように伝えるか—読書感想文の指導のあり方をめぐって—」『学校図書館4』No.774、全国学校図書館協議会、pp.34-35。
5. 下田好行「大学図書館と東洋大学の未来」『KOZMOZ』No.156、p.2
6. 下田好行「全体的な視点に立つ道徳教育の教材」『日本教材学会第27回研究発表大会研究発表論文集』東京学芸大学、2015.10.10-11、pp.70-71。
7. 下田好行・岸正博・丸山久夫・碓井幸子・満瀧夏実「教師力と教材開発」『日本教材学会第27回研究発表大会研究発表論文集』東京学芸大学、2015.10.10-11、pp.164-165。
8. 下田好行「全体的な視点に立った道徳の授業開発」『関東教育学会第63回大会発表要旨集録』2015.11.8、青山学院大学、pp.17-18。

【研究助成】

- ・科学研究費補助金基盤研究C「ホリスティックな視点に立ち道徳教育の研究」研究代表、日本学術振興会、2015.4~現在

<教育活動>

【学内】

(学部) 教育方法論 (教育学Ⅰ部: 初等教育・人間発達、教育学Ⅱ部) 教育方法研究 (文学部、社会学部、経営学部) 教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ 教育学卒論ゼミナール

(大学院) 学習指導論研究演習 教育学研究指導Ⅷ

【学外】

- ・ 学校図書館司書教諭講習会 (文部科学省) 於 信州大学教育学部 「学習指導と学校図書館」 講師
- ・ 立正大学 社会福祉学部 「教育方法論」 講師
- ・ 筑波大学 教職課程 「特別活動論」 講師

<学会活動>

- ・ 日本教材学会 常任理事
- ・ 日本国語教育学会 理事
- ・ 日本教材学会 教材開発部会 委員長

<社会的活動>

- ・ 厚生労働省 社会保障審議会 福祉文化分科会 委員 出版物委員会 委員長
平成26年度版『子どもたちの読んでほしい本』
厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 (厚生労働省) 作成
- ・ 日本教材文化研究財団 評議員
- ・ 品川区立上神明小学校 外部評価委員長

須田 将 司

<研究活動>

【論文等】

1. 「1952～63年度における神奈川県福沢小学校の『実力の検討』シリーズ—子どもの「実力」を高める授業研究の歩み—」『東洋大学文学部紀要』第68集教育学編XL、2015年3月、71-86頁
2. 福島県南相馬市教育委員会『原町市史 第7巻 資料編5 現代編』2015年3月、630-750頁 (第4章「教育」担当)

【学会発表】

1. 「1930年代半ばにおける「新興報徳運動」と報徳教育の群生—栃木県・島根県の事例から—」全国地方教育史学会第38回大会、茨城大学、2015年5月17日
2. 「戦後神奈川県における教員団体再編の模索

—占領下における教育「民主化」と職能向上をめぐる諸相—」科学研究費補助金 (基盤研究B)「日本型教育行政システムの構造と史的展開に関する総合的研究」第1回研究会、立教大学、2015年7月19日

3. 「報徳教育の錬成論的な形成と展開—加藤仁平のイデオログ性に着目して—」日本教育学会第74回大会、お茶の水女子大学、2015年8月19日
4. 「日中戦争期における「学校常会」論の広がり—培地となった「国民訓育連盟」と「日本青年教師団」—」教育史学会第58回大会、宮城教育大学、2015年9月26日

【研究助成】

1. 日本学術振興会平成25～27年度科学研究費補助金 (若手研究B)「昭和戦前期「報徳教育」の錬成的・教育学的展開に関する実証的研究」(研究代表者)
2. 日本学術振興会平成26～28年度科学研究費補助金 (挑戦的萌芽)「学力向上を支える教員文化の創造に関する基礎的研究」(研究分担者)
3. 日本学術振興会平成27～29年度科学研究費補助金 (基盤研究B)「日本型教育行政システムの構造と史的展開に関する総合的研究」(研究分担者)

【その他】

1. 「短信」『フークトープ通信』第2号、フークトープ通信社、2015年9月
2. 書評「足立洋一郎著『報徳運動と近代地域社会』」『日本歴史』2016年1月号 (812)、吉川弘文館、2015年12月

【講演等】

1. 「出席確認機能を活用した授業展開—学生の認識を可視化させ、学習意欲を高める試み」朝日ネット主催第17回manabaセミナー、ホテル阪急インターナショナル、2015年10月30日
2. 「大学教育からみたキャリア教育と小学校教育への期待」東京都荒川区小学校長会、荒川区立第五峡田小学校、2015年12月11日

<教育活動>

【学内】

(学部) 社会文化史 (日本)、教育史、教育基礎論Ⅰ、教育基礎論Ⅱ、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教

職実践演習、教育学入門ゼミナール、教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ (Ⅰ部)

(大学院) 比較教育史特殊講義

<大学・学部管理運営活動>

1. 文学部予算委員会

その他：東洋大学居合道同好会顧問

<学会活動>

1. 教育史学会 (会員)

2. 日本教育学会 (会員)

3. 全国地方教育史学会 (常任幹事)

4. 日本教育史研究会 (世話人、事務局長、第34回サマーセミナー (8月23~24日) 開催校)

5. 日本教育史学会 (会員)

6. 日本教師教育学会 (会員)

7. 日本社会科教育学会 (会員)

8. 東北教育学会 (会員)

9. 福島大学教育学会 (会員)

<社会的活動等>

1. 福島県南相馬市「原町市史編さん事業」専門研究委員

2. 福島県相馬市「相馬市史編さん事業」近代・現代部会調査執筆委員

3. 公益財団法人野間教育研究所兼任研究員

関 直 規

<研究活動>

【著書・論文等】

1. 「戦間期イギリスの学校開放と成人教育の地域的多様化に関する一検討—ロンドンの『ジェネラル・インスティテュート』を中心に—」(単著)『東洋大学文学部紀要』第68集、教育学科編XL、2015年3月、pp.45-52。

2. 「戦前期大都市の児童と映画の問題化をめぐる社会教育の改革—東京市の『映画教育』事業を手がかりに—」(単著)『東洋大学大学院紀要』第51集、2015年3月、pp.355-368。

【研究助成】

1. 日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究(C)(研究代表者関直規)「社会教育・成人教育活動における公立学校の地域開放史に関する日英比較研究」(25381092)(2013年度~2015年度)。

【その他】

1. 「はじめに ゼミナール改革案—メンバーにできること—」(単著)『2014年度教育学ゼミ

ナールⅠ・Ⅱ 卒業論文ゼミナール 社会教育学研究成果報告書』第5号、2015年1月。

<教育活動>

【学部担当授業科目等】

(学部)「教育学入門ゼミナール」・「教職総合ゼミナール」(第1部)、「教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ」(第1部・第2部)、「教育学卒論ゼミナール」(第1部・第2部)、「社会教育計画論Ⅰ・Ⅱ」(第1部・第2部)、「文化地誌学」(第1部・第2部)、「総合IA／IB、ⅧA／B 私学の役割と目的—人間教育の担い手—」(日本の近代化と東洋大学—井上円了の哲学と実践—、校友会寄附講座、渡辺章悟等と共同担当)

(大学院)「教育文化論特殊講義」

(学外)「現代社会と社会教育」筑波大学人間学群教育学類非常勤講師(集中講義)

<大学・学部管理運営活動>

1. 社会貢献センター運営委員会委員(社会貢献事業検討小委員会委員)

2. 東洋大学文学部紀要第69集教育学科編XLI編集委員

<学会活動>

1. 日本教育学会 (会員)

2. 日本社会教育学会 (会員)

3. 日本公民館学会 (副会長、理事、学会年報編集委員長、研究活動促進助成事業選考委員)

<社会的活動等>

1. 所沢市社会教育委員

2. 第20回入間地区生涯学習フォーラム発表(共同発表者佐野喜代子)「社会教育関係団体の支援策について—『しらせる・つなぐ・ひらく』を目指して—」、於川越南文化会館ジョイフル、2015年2月20日。

3. 朝霞市男女平等推進審議会委員

4. 川越市生涯学習基本計画審議会委員

滝 川 国 芳

<研究活動>

【論文】

1. 滝川国芳(2015)インクルーシブ教育システムの構築のための病弱・身体虚弱教育の役割(単著). 東洋大学文学部紀要第68集, 教育学科編XL, 97-109. (2015年3月)

【学会発表】

1. 濱崎麻弥・滝川国芳・谷口明子（2015）通常の学級に在籍している病気のある子どもへの教育支援—学習支援の記録より得られた子どもと保護者が抱える課題—, 日本育療学会第19回学術集会抄録集, 40. (2015年 8月23日)
2. 滝川国芳（2015）病気の子供の療育と学びを支えるICT活用. 日本特殊教育学会第53回大会論文集, 自主シンポジウム58, 企画者・司会者. (2015年 9月20日)

【研究助成】

1. 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)）「病気を理由に学校を長期欠席している児童生徒の学びの支援システム開発に関する研究」（研究代表者 滝川国芳）, 2013-2015年度.
2. 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)）「病院訪問教育におけるICTを活用した思考力・判断力・表現力育成に関する実践的研究」（研究代表者 福本徹）研究分担者, 2015-2017年度.
3. 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)）「看護系大学における慢性疾患の学生の支援体制構築の検討」（研究代表者 河合洋子）研究分担者, 2015-2017年度.

【その他】

1. 日本育療学会平成26年度小規模研修会シンポジウム「病気の子供の療養と学びを支えるICT活用」. 企画者・司会者, 宝塚大学大阪梅田キャンパス. (2015年 2月21日)
2. 日本育療学会第19回学術集会大会長, 東洋大学（白山キャンパス）. (2015年 8月22日・23日)

【講演等】

1. 「軽度知的障害の生徒を対象とした教育内容／方法」. 東京都立足立特別支援学校, 講演. (2015年 2月13日)
2. 「子どもたちの生活支援・教育支援のためのICT活用」. 長野県立寿台養護学校, 講演. (2015年 2月20日)
3. 「病弱教育におけるICT活用に関する研究」. 国立特別支援教育総合研究所, 講演. (2015年 3月3日)
4. 「病気やけがの治療のために登校できない児童生徒の学習支援—その現状と課題—」. 福井県教育委員会第2回障害児就学事務担当者

協議会, 講演, 福井県立特別支援教育センター. (2015年 3月9日)

5. 「主体的に学ぶ意欲を育てる指導方法の工夫—自己肯定感を高める取り組みを通して—」. 東京都立足立特別支援学校, 講演. (2015年 7月21日)
6. 第56回全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会並びに総会（京都大会）分科会①「ICT活用」, 助言者. (2015年 8月4日)
7. 「病弱教育のICT／AT」. 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所, 共同研究「小児がん患者の医療, 教育, 福祉の総合的な支援に関する研究」第1回研究協議会, 講演. (2015年 8月7日)
8. 東洋大学全国講師派遣事業講演「障害や病気のある子どものための特別支援教育」. 福井県三方上中郡若狭町教育委員会主催, パレア若狭音楽ホール. (2015年 8月28日)
9. 「病気の子どもの学びを支えるICT活用の意義」. 埼玉県立岩槻特別支援学校, 講演. (2015年10月16日)

<教育活動>

【学内】

- （学部）特別支援教育概論Ⅰ（第1部・第2部）、特別支援教育概論Ⅱ（第1部・第2部）、病弱児の指導法（第1部）、教職総合ゼミナール（第1部）、特別支援学校教育実習（第2部）、教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ（第1部）、教育学卒論ゼミナール（第1部）
- （大学院）発達障害児教育研究演習、教育学研究指導Ⅵ

【学外】

1. びわこ学院大学教育福祉学部非常勤講師

<大学・学部管理運営活動>

1. 東洋大学障がい学生支援委員会委員（学長推薦教職員）
2. 東洋大学教職課程運営委員会専門委員
3. 東洋大学文学部自己点検評価委員会委員
4. 東洋大学人間科学総合研究所研究員

<学会活動>

1. 日本育療学会（事務局長・理事・編集委員）
2. 日本特殊教育学会（会員）
3. 日本LD学会（会員）
4. 日本小児保健協会（会員）
5. 日本特別ニーズ教育学会（会員）

6. 日本学校保健学会 (会員)

<社会的活動等>

1. 埼玉県教育委員会「平成27年度埼玉県教科用図書選定審議会」委員
2. 北海道教員委員会免許法認定講習講師 (病弱者の心理・生理・病理・教育課程・指導法)
3. 広島県教育委員会免許法認定講習講師 (病弱者の心理, 生理及び病理)
4. 認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク運営委員

谷口明子

<研究活動>

【論文】

1. 谷口明子 (2015). 病弱児の社会的自立のために“つけたい力”とは—キャリア発達支援の観点からの探索的研究—. 東洋大学文学部紀要教育学科篇, vol.68, pp.111-120.

【学会発表】

1. 谷口明子 (2015). 病弱教育におけるキャリア教育の実践—実践事例における「ねらい」の内容分析. 日本育療学会第19回学術集会抄録集 (2015年8月).
2. 濱崎麻弥・滝川国芳・谷口明子 (2015). 通常の学級に在籍する病気のある子どもへの教育支援—学習支援の記録より得られた子どもと保護者が抱える課題. 日本育療学会第19回学術集会抄録集, p.40 (2015年8月).

【研究助成】

1. 科学研究費基盤研究(C) (2013年度-2015年度) 「病弱教育におけるキャリア発達支援プログラムの開発」 (研究代表者: 谷口明子), 研究代表者

【その他】

1. 長期入院児童生徒の教育に関するコメント (日本教育新聞: 2015年6月8日)

【講演等】

1. 都立北特別支援学校東大こだま分教室授業研究会講演, 2015年1月23日.
2. 国立特別支援教育総合研究所専門研修講師, 2015年2月23日.
3. 都立久留米特別支援学校公開授業研究会講演, 2015年3月20日.
4. 東洋大学附属牛久高等学校学部・学科説明会, 2015年5月15日.

5. 都立北特別支援学校病弱部門授業力向上研修会講演, 2015年7月31日.

6. 山梨県北杜市北巨摩集会講演 (東洋大学全国講師派遣事業), 2015年10月17日.

7. 国立特別支援教育総合研究所専門研修講師, 2015年11月2日.

8. 都立久留米特別支援学校公開授業研究会講演, 2015年11月7日.

<教育活動>

【学内】

(学部) 教職総合ゼミナール (I部)、教育学ゼミナール I・II (I部)、教育心理学概論 (I・II部)、生涯発達心理学 (I・II部)、教育学卒論ゼミナール (I・II部)、教職実践演習 (II部)

(大学院) 教育心理学特殊講義、生徒指導・進路指導特殊講義、教育学研究指導XII、教育学特殊研究III、教育学研究指導III

【学外】

(学部) 学習院大学教職課程「教育相談A」

(大学院) 立教大学大学院「特殊教育研究5」

<大学・学部管理運営活動>

1. 平成27年度文学部II部教育学科長

<学会活動>

1. 日本質的心理学会 (常任理事)
2. 日本育療学会 (理事・編集委員)
3. 日本発達心理学会 (学会誌査読委員)
4. 日本発達障害支援システム学会 (学会誌編集委員)
5. 日本教育心理学会 (学会誌編集委員)
6. 日本特殊教育学会 (会員)
7. 日本医療保育学会 (会員)
8. 日本小児保健学会 (会員)
9. 日本健康心理学会 (会員)
10. American Psychological Association (会員)

<社会的活動等>

1. 東京都立久留米特別支援学校 学校評価委員・学校運営協議会委員
2. 東京都立北特別支援学校 学校運営協議会委員
3. 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員 (2015年7月31日まで)

長谷川 勝 久

<研究活動>

【論文】

1. 長谷川勝久、戸原あつ子 (2015): 「算数教育における学習内容の構造的理解を測定する問題形式と構造的理解が可能な学年に関する研究」、東洋大学文学部紀要 68 (XL) 127-133
2. 廣瀬隆司、坂井武司、石内久次、齋藤昇、松寄昭雄、長谷川勝久、清水翔太 (2015): 「児童の「小数×小数、小数÷小数」の学習理解度尺度の開発—第5学年・第6学年の児童における水準及び水準内での段階区分に焦点を当てて」、数学教育学会誌 55 (3・4) 77-88
3. 佐久間大、長谷川勝久、室田真男、中川正宣 (2015): 「児童生徒の実態イメージカードを用いた模擬授業デザインの有効性の検討」、日本教育工学会研究報告集、学校のエデュ力向上に資する実践研究/一般、pp.1-4
4. 今井智貴、佐久間大、長谷川勝久、高石哲巳、畠野真理子 (2015): 「児童生徒の実態イメージカードを用いた授業省察時における評価観点の抽出とカテゴリの検討」、日本教育工学会研究報告集、学校のエデュ力向上に資する実践研究/一般、pp.5-12
5. 畠野真理子、佐久間大、長谷川勝久、高石哲巳、今井智貴 (2015): 「模擬授業における児童生徒役の反応可視化手法の検討」、日本教育工学会研究報告集、学校のエデュ力向上に資する実践研究/一般、pp.117-122

【学会発表等 (学会シンポジウム提案を含む)】

1. 廣瀬隆司、坂井武司、松寄昭雄、長谷川勝久、野口紗也香 (2015): 「算数教育における教師の授業実践力に関する尺度開発」、2015年度数学教育学会春季例会発表論文集、pp. -
2. 長谷川勝久、坂井武司、石内久次、廣瀬隆司、松寄昭雄、齋藤昇 (2015): 「第5学年「小数×小数、小数÷小数」に関する授業実践」、2015年度 数学教育学会夏季研究会講演論文集、pp.28-31
3. 廣瀬隆司、長谷川勝久、坂井武司 (2015): 「算数教育におけるAbductionに関する研究」、2015年度 数学教育学会秋季例会発表論文集、pp.210-212

<教育活動>

【学内担当授業科目等 (学部・大学院)】

(学部)

1. 初等科算数
2. 初等教科教育法 (算数)
3. 教育評価論
4. 視聴覚教育 (視聴覚メディア論を含む)
5. 教育学ゼミナール I・II
6. 教育学科卒論ゼミナール
7. 初等教育実践研究A
8. 初等算数特講

(大学院)

1. 算数・数学科教育研究演習 (通信)
1. 教育方法研究 (情報機器の活用を含む)

<大学・学部管理運営活動>

1. 全学FD推進委員会委員
(1) 授業評価手法検討部会部長
(2) 教育改善対策部会委員
2. 通信教育委員会委員
3. 文学部改革委員会委員
4. GPA検討小委員会委員
5. クォーター制検討小委員会委員

<主な所属学会>

1. 日本教育工学会 (会員)
2. 教育システム情報学会 (会員)
3. 日本数学教育学会 (会員)
4. 数学教育学会 (会員)
5. 全国数学教育学会 (会員)
6. 日本科学教育学会 (会員)
7. 教育目標・評価学会 (会員)
8. 日本教育実践学会 (会員)

藤 本 典 裕

【論文】

1. 教職員の養成・採用・研修と身分保障『教育行政学 (改訂新版)』勝野正章・藤本典裕編著、学文社、2015年3月10日、pp.121-134

【その他】

1. 交差点に立って (巻頭言)『パイディア』(東洋大学教職課程運営委員会・東洋大学教務部教職・共通教育支援課)、26号、2015年4月1日、p.3
2. 交差点に立って (巻頭言)『パイディア』(東洋大学教職課程運営委員会・東洋大学教務部教職・共通教育支援課)、26号、2015年4月

1 日、p.3

3. 分科会報告21「教育条件確立の運動」『日本の民主教育：教育研究全国集会2015報告集』みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい教育研究全国集会2015実行委員会編、大月書店、2015年12月25日、pp.251-260

【講演等】

1. 「教職員としての学校事務職員」再考
平成27年度和歌山県小中学校事務研究大会、和歌山県教育委員会・和歌山県小中学校事務研究協議会主催、於和歌山県立情報交流センター Big・U、2015年6月5日
2. たかがアニメの教育学
平成27年度第1回青少年育成セミナー、公益社団法人岩手県青少年育成県民会議主催、於アイーナ（いわて県民情報交流センター）、2015年7月1日
3. たかがアニメの教育
いきがい大学春日部、於春日部市庄和保健センター本館、2015年9月3日
4. たかがアニメの教育
男女共同参画「さん・さん」セミナー、於アルネ・津山、津山男女共同参画センター「さん・さん」主催、2015年9月5日
5. たかがアニメの教育
平成27年度公開講座、新庄市生涯学習センターわくわく新庄主催、於新庄市生涯学習センター「わくわく新庄」、2015年9月26日
6. いのち・暮らし・子どもを大切にする社会を～日本国憲法を生かして～
第29回教育財政シンポジウム、コーディネーターとして参加、於東洋大学5404教室、2015年11月28日

<教育活動>

【学内】

- (学部) 教職論 (Ⅰ部1.0コマ、Ⅱ部0.5コマ)、教育基礎論Ⅰ (0.5コマ)、教育基礎論Ⅱ (0.5コマ)、教職概論 (Ⅰ部0.5コマ)、教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ・卒論ゼミナール (1コマ)、教職実践演習 (Ⅰ部0.5コマ)
- (大学院) 教育行財政学特殊講義(大学院博士前期、1コマ)、教育学特殊研究Ⅷ・教育学研究指導Ⅷ (大学院博士後期、1コマ)
- (通信) 教育基礎論Ⅰ (通信教育課程、0.5コマ)

【学外】

教育原論 (立教大学、0.5コマ)、教育制度論・課程論 (立教大学、0.5コマ)、教育学 (法政大学、0.5コマ)、教育行財政学特講 (お茶の水女子大学、0.5コマ))

<大学・学部管理運営活動>

1. 東洋大学教職課程運営委員会委員長 (2014年4月1日より)
2. 東洋大学評議員 (2012年11月27日～2015年11月26日)

<学会活動>

1. 日本教育学会 (会員)
2. 日本教育行政学会 (会員)
3. 日本教育法学会 (会員)
4. 日本教師教育学会 (会員)
5. 日本教育政策学会 (会員)

宮 本 直 樹

<研究活動>

【論文】

1. 「イギリス中等前期科学教科書におけるデータ解釈—Key Stage 3 Science Spectrum 7～9に着目して—」、日本教材学会、『教材学研究』、第26巻、2015年3月、pp.139-146
2. 「河川の水環境学習実践における『自然の関係性理解』に関する考察—宮戸川を事例にして—」、日本環境教育学会、『環境教育』、24巻、3号、2015年3月、pp.123-129
3. 「小・中学校理科におけるデータ解釈能力を育成するための指導法—サイエンスプロセス・スキルに着目して—」日本科学教育学会、『科学教育研究』、第39巻、第2号、2015年6月、pp.176-185
4. 「米国中等前期科学教科書におけるデータ解釈の記述の特徴」日本科学教育学会、『科学教育研究』、第39巻、第3号、2015年9月、pp.294-306

【学会発表】

1. 「小学校理科教科書地学分野におけるデータ解釈指導法の特徴」、『日本理科教育学会九州支部大会発表論文集』、第42巻、2015年5月、pp.68-71
2. 「科学的探究におけるデータ解釈能力育成に関する基礎的研究—仮説設定後の『結果の予想』に着目して—」、『日本理科教育学会第65回全国大会京都教育大会論文集』、2015年8

月、p.480

【研究助成】

1. 児童のデータ解釈能力を高める言語活動、公益財団法人報博児童教育振興会、第10回児童教育実践についての研究助成、研究期間：2015年4月～2016年3月（研究代表）

【その他】

1. 「たのしい理科」小学校理科教科書、有馬朗人ほか、大日本図書、2015年4月
2. 「たのしい理科」教師用指導書、星野昌治ほか、大日本図書、2015年4月

<教育活動>

【学内】

（学部）初等科理科、初等教科教育法（理科）、初等教科教育法（生活）、教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ、教育学卒論ゼミナール、初等教育実習、教育実習Ⅰ・Ⅱ（2部）、初等教育実践研究B、教職実践演習

（大学院）理科教育研究演習、環境教育論特殊講義

<大学・学部管理運営活動>

1. キャリア就職推進委員会

<学会活動>

日本理科教育学会会員、日本科学教育学会会員、日本エネルギー環境教育学会会員、教育実践学会会員、日本物理教育学会会員、日本環境教育学会会員、日本教材学会会員、日本教育心理学会会員

<社会的活動>

1. 平成27年度平塚市小学校教育研究会理科部会、平塚市立吉沢小学校、講師、2015年6月

矢口悦子

<研究活動>

【共著書】

1. 日本社会教育学会編『地域を支える人々の学習支援—社会教育関連職員の役割と力量形成—』東洋館出版社、2015年9月。（執筆箇所「第3章 海外における生涯学習関連職員の養成と研修 扉」pp.189-190、「イギリスにおける生涯学習セクター職員の資格をめぐる政策の変化と職員養成の現状」pp.216-229.）

【論文】

1. 「『共同学習』論の源流に関する検討—学校教育と社会教育の『共同学習』理解の違いに注目して—」『東洋大学文学部紀要』第68集、

教育学科編X L、2015年3月、pp.135-144。

【その他】

1. 書評 「渡邊洋子著 近代日本の女性専門職教育—生涯教育学から見た東京女子医科大学創立者・吉岡彌生」、京都大学大学院教育学研究科『京都大学生涯学習フィールド研究』vol.3（通巻第14号）、2015年3月、pp.119-123。
5. 「刊行にあたって」「公開講座と講師派遣の概要」『東洋大学社会貢献センター年報 平成25（2013）年度版』2014年12月、p.1、pp.4-14。（前年度未掲載）

【講演等】

1. 「話し合いの進め方」東京都荒川区コミュニティカレッジ、講演、2015年2月10日。
2. 「自分史を書く講座」（東洋大学エクステンション講座B）、講師、2015年5月21日及び7月9日。
3. 「女性の再チャレンジのための講座」（東洋大学エクステンション講座B）、講師、2015年10月26日及び11月30日。
4. 「東洋大学男女共学教育の始まりと歴史について」報告（「東洋大学男女共学100年の成果—私立大学での日本初の女子教育を卒業生たちと検証する—」東洋大学社会貢献センターシンポジウム）2015年11月8日。

<教育活動>

【学内担当授業科目等】

（学部）生涯学習概論Ⅰ（1部）、同Ⅱ（1部）、教育学ゼミナールⅠⅡ（1部）、卒論ゼミナール（1、2部）、初等科家庭（1部）
（大学院）生涯学習計画の研究演習（博士前期課程）、教育学研究指導Ⅰ（博士前期課程）、教育学特殊研究Ⅰ（博士後期課程）、教育学研究指導Ⅰ（博士後期課程）

<大学管理運営活動等>

1. 文学部長
2. 大学院文学研究科委員
3. 東洋大学評議員
4. その他 役職上の委員：省略

<学会活動>

1. 日本社会教育学会（会員、常任理事、『社会教育学研究』編集委員長：2015年8月まで）
2. 日本教育学会（会員、『教育学研究』及びESJ編集委員：2015年12月まで）
3. 日英教育学会（会員）

4. 日本公民館学会 (会員)

<社会的活動等>

1. 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (2015年11月まで)
2. 内閣府統計委員会専門委員 (2015年10月まで)
3. 一般財団法人日本青年館評議員
4. 埼玉県朝霞市教育行政施策評価会議委員
5. 埼玉県朝霞市男女平等審議会委員 (6月まで)

米澤正雄

<研究活動>

【論文】

1. 論文「篠原助市「批判的教育学」と彼の国体観との関係の究明—「自然の理性化」の、「社会による教育・社会の為の教育」としての展開—」『東洋大学文学部紀要 第68集 教育学科編 XL 2014年度』2015年3月8日、pp. 145-154。

【学会発表】

1. 個人研究発表「篠原助市における「批判的教育学」のゆくえ—『批判的教育学の問題』と『民主主義と教育の精神』とにおけるデューイ教育思想理解を手がかりに—」日本デューイ学会第59回研究大会、第2日目 (2015年10月4日、於、明星大学)
2. (司会) 関東教育学会第63回大会、「研究発表」第2会場の司会を新井保幸氏 (淑徳大学) とともに担当 (2015年11月8日、於、青山学院大学17号館)

<教育活動>

【学内】

(学部) 教育学概論 (1部、人間発達専攻、春学期)、教育学概論 (1部、初等教育専攻、秋学期)、教育学概論 (2部、春学期)、教育基礎論 (1部、教職課程科目、春学期)、社会文化史 (西洋) (1部、春学期)、社会文化史 (西洋) (2部、春学期)、教職総合ゼミナール (1部、通年科目の秋学期担当)、教育学ゼミナールⅠ (1部、通年)、教育学ゼミナールⅡ (1部、通年)、教育学卒業論文ゼミナール (1部、通年)

(大学院) 博士前期課程:教育学説研究演習 (通年)、教育学説研究演習A / B (Aは春学期 / Bは秋学期)、教育学研究指導Ⅶ (通年)、教育学研究指導ⅦA / B (Aは春

学期 / Bは秋学期)

博士後期課程:教育学特殊研究Ⅱ (通年)、教育学特殊研究ⅡA / B (Aは春学期 / Bは秋学期)、教育学研究指導Ⅱ (通年)、教育学研究指導ⅡA / B (Aは春学期 / Bは秋学期)

【学外】

青山学院大学大学院人間科学研究科 非常勤講師
博士前期課程「教育学特殊講義Ⅰ」(前期科目)
担当 (2015年4月より2015年9月まで)

<大学・学部管理運営活動>

1. 大学院文学研究科委員

<学会活動>

1. 日本デューイ学会 (会員、理事、紀要編集委員 (2013年9月より2015年10月まで)、紀要編集委員長 (2014年10月より2015年10月まで))
2. 教育哲学会 (会員)
3. 日本教育学会 (会員)
4. 教育史学会 (会員)
5. アメリカ教育史研究会 (会員)
6. アメリカ学会 (会員)
7. 社会学研究会 (同人)
8. 日本創造学会 (会員)
9. 関東教育学会 (会員)
10. 筑波大学教育学会 (会員)

編集委員

清 水 直 治
関 直 規

東洋大学文学部紀要第 69 集

教育学科編 XLI

〔非売品〕

2016（平成28）年 3 月 7 日 印刷

2016（平成28）年 3 月 11 日 発行

編集者 東洋大学文学部 教育学科

発行所 東 洋 大 学

東京都文京区白山 5-28-20